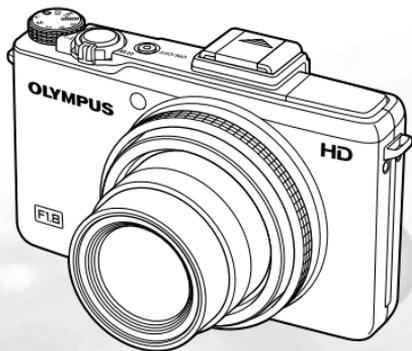
OLYMPUS®

デジタルカメラ

XZ-1

取扱説明書

- オリンパスデジタルカメラのお買い上げ、ありがとうございます。カメラを操作しながらこの説明書をお読みいただき、安全に正しくお使いください。特に「安全にお使いいただくために」は、製品をご使用になる前に良くお読みください。またお読みになったあとも、必ず保管してください。
- 海外旅行などの大切な撮影の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。
- 取扱説明書で使用している画面やカメラのイラストは実際の製品とは異なる場合があります。

ステップ 1 箱の中身を確認する

デジタルカメラ

ストラップ

レンズキャップ/レンズキャップ用ひも

リチウムイオン電池（LI-50B）

USB-ACアダプタ（F-2AC）

USB ケーブル

AV ケーブル

OLYMPUS Setup CD-ROM

その他の付属品 : 取扱説明書（本書）、保証書

ステップ 2 カメラを準備する

「カメラを準備する」（p. 17）

ステップ 3 写真を撮って再生する

「撮影する・再生する・消去する」（p. 24）

ステップ 4 カメラの使い方を知る

「カメラの設定操作」（p. 3）

ステップ 5 プリントする

「ダイレクトプリント（PictBridge）」（p. 68）
「プリント予約（DPOF）」（p. 72）

目次

➢ 各部の名前 9
➢ カメラを準備する 17
➢ 撮影する・再生する・消去する 24
➢ 撮影モードを使いこなす 32
➢ 撮影機能を使いこなす 40
➢ 撮影に関連するメニュー 49
➢ 再生・編集・プリントに関連するメニュー 56
➢ カメラの設定に関連するメニュー 61
➢ プリントする 68
➢ 使い方のヒント 75
➢ 資料 80

Web 版 取扱説明書

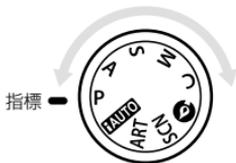
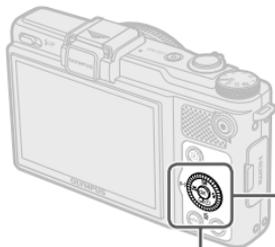
オリンパスホームページにて作例写真を使った撮影テクニックを紹介しています。
http://www.olympus.co.jp/jp/imsg/webmanual/

カメラの設定操作

ダイレクトボタンで操作する

よく使う機能はダイレクトボタンで操作します。

モードダイヤル

モードダイヤルを使っていろいろな撮影を楽しめます。

iAUTO	iオート（p. 32）
P	プログラムオート（p. 24）
A	絞り優先（p. 33）
S	シャッター優先（p. 33）
M	マニュアル（p. 34）
C	カスタムモード（p. 34）
◆	ローライト（p. 34）
SCN	シーンモード（p. 35）
ART	アートフィルター（p. 38）

㉫ボタン
（p. 4, 5）

スクロールダイヤル

△（上）/
☒ボタン（露出補正）（p. 42）

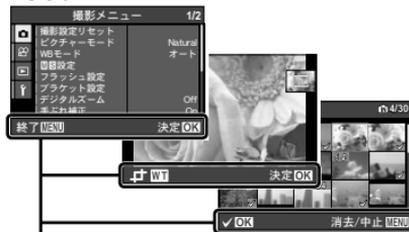
▽（下）/
□ʲ◌ボタン（ドライブ/セルフタイマー）（p. 42）/
🗑ボタン（消去）（p. 29）

◁（左）/
✿ボタン（マクロ）（p. 40）/
[···]ボタン（AFターゲット）（p. 41）

▷（右）/
ϟボタン（フラッシュ）（p. 41）

操作ガイド

画像の選択や各種設定に表示される△▽◁▷は、スクロールダイヤルの各部（上図参照）を押すことを示しています。

画面下部に表示される操作ガイドは、**MENU**ボタンや㉫ボタン、ズームレバーを使うことを示しています。

ライブコントロールを使う

撮影時に ㊙ ボタンを押すと、ライブコントロールが表示されます。ライブコントロールを使うと、画面で効果を確認しながら撮影機能を設定できます。

[i オート] では、ライブコントロールは表示されません。

設定できる機能については、「撮影に関連するメニュー」(p.7) をご覧ください。

ライブコントロール表示

1 ㊙ ボタンを押す。

- ライブコントロールが表示されます。

2 △▽ でカーソルを設定したい機能に移動し、◁▷ で設定を選択し ㊙ ボタンを押す。

- ㊙ ボタンを押す、またはしばらく何も操作しない状態が続くとライブコントロールの表示が消えます。

設定されている機能の組み合わせ、あるいは撮影モードによっては選択できないメニューがあります。

メニューで操作する

カメラの様々な設定はメニューで操作します。

撮影時または再生時に **MENU** ボタンを押すと、メニューが表示されます。メニューでは、撮影や再生に関する機能や、日時や画面表示設定などカメラの様々な機能を設定します。

1 **MENU** ボタンを押す。

- メニューが表示されます。

2 ◁ でページタブをハイライトさせてから、△▽ で目的のページタブを選び、▷ を押す。

3 △▽ で目的のサブメニュー 1 を選び、㊊ ボタンを押す。

4 △▽ で目的のサブメニュー 2 を選び、㊊ ボタンを押す。

- 設定が確定して 1 画面前に戻ります。

設定後、さらに個別の操作があることがあります。詳細は「メニュー設定」(p. 49 ～ 67)をご覧ください。

5 **MENU** ボタンを押して設定を終える。

メニューインデックス

撮影に関連するメニュー

ライブコントロール

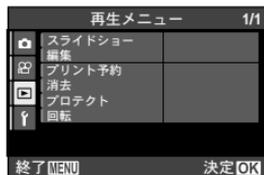
ISO 感度..............................p.43
ピクチャーモード.................p.43
ホワイトバランス.................p.44
ドライブ / セルフタイマー p.42
アスペクト...........................p.45
画像サイズ（静止画）............p.45
ムービーサイズ（ムービー）...p.46
フラッシュ p.41
フラッシュ補正 p.47
測光......................................p.47
ND フィルタ p.48
AF 方式 p.40
顔優先...................................p.48

撮影メニュー

撮影設定リセット.................p.49
ピクチャーモード.................p.49
WB モード...........................p.50
MS 設定..............................p.51
フラッシュ設定 p.52
ブラケット設定 p.52
デジタルズーム p.53
手ぶれ補正...........................p.53
（コンバージョンレンズ）...p.53
AF イルミネータ p.54
撮影確認...............................p.54
Info Off 時間 p.54
パノラマ p.55

ムービーメニュー

ムービーサイズ p.55
ムービー録音........................p.55

再生・編集・プリントに関連するメニュー

再生メニュー

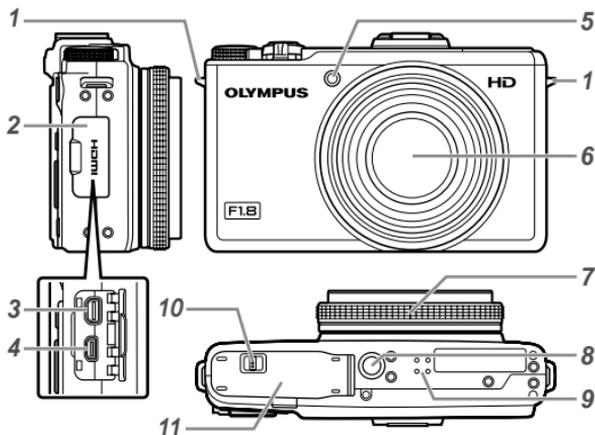
スライドショー p.56
編集 ....p.56 ～ 58
プリント予約........................p.59
消去 p.59
プロテクト...........................p.60
回転 p.60

カメラの設定に関連するメニュー

セットアップメニュー

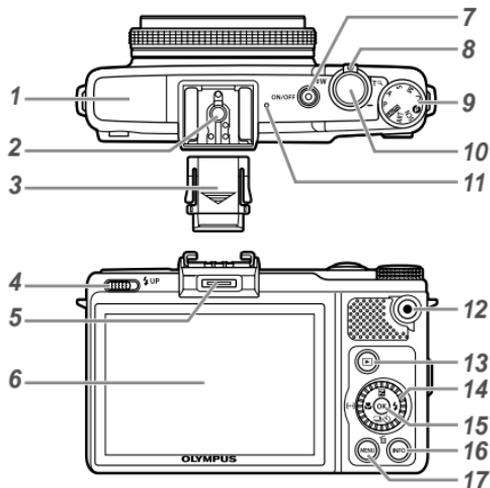
カスタムモード登録..............p.61
内蔵メモリ初期化 /
カード初期化........................p.61
データコピー........................p.61
USB 接続モード...................p.62
再生ボタン起動 p.62
音設定..................................p.62
ファイル名メモリー..............p.63
ピクセルマッピング..............p.63
モニタ調整...........................p.63
テレビ出力...........................p.64
スリープ時間........................p.66
（言語設定）....................p.66
日時設定 p.66
ワールドタイム p.67

各部の名前

カメラ本体

1 ストラップ取付部.................................... p.17
2 コネクタカバー................ p.19, 21, 64, 65, 68
3 マルチコネクタ...................... p.19, 21, 64, 68
4 HDMIマイクロコネクタ p.65
5 セルフタイマーランプ............................ p.42
AFイルミネータ...................................... p.54
6 レンズ p.80, 93
7 コントロールリング p.31, 33, 34
8 三脚穴
9 スピーカー
10 電池/カードカバーロック.......................... p.17
11 電池/カードカバー.................................... p.17

コントロールリング

撮影時にコントロールリングを回すと、設定値を変更できます。

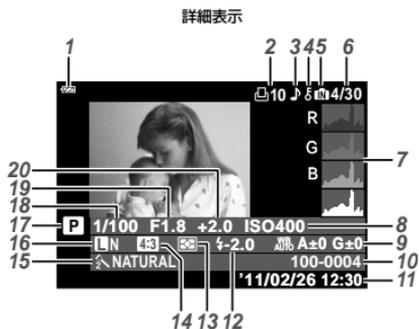
撮影モード	変更可能な設定
P / ❹	ISO感度
A / M	絞り値
S	シャッター速度
SCN	シーンモードの項目
ART	アートフィルターの項目
C	カスタム登録した撮影モードと同じ設定

1 フラッシュ.................................. p.41, 47, 52
2 ホットシュー p.85
3 ホットシューカバー
4 フラッシュスイッチ p.41
5 アクセサリーポート p.85, 86
6 モニタ p.24, 63, 75
7 **ON/OFF**ボタン................................... p.22, 24
動作ランプ.................................. p.18, 19, 21
8 ズームレバー p.26, 30
9 モードダイヤル.. p.3
10 シャッターボタン.................................... p.25
11 録音マイク.. p.55, 58

12 ◉ボタン（ムービー録画）.......................... p.25
13 ▶ボタン（撮影/再生モード切替）......... p.25, 27
14 スクロールダイヤル p.4
露出補正ボタン（露出補正）............................... p.42
ドライブ/セルフタイマーボタン（ドライブ/セルフタイマー）.. p.42
消去ボタン（消去）.................................... p.29
マクロボタン（マクロ）................................ p.40
AFターゲットボタン（AFターゲット）................... p.41
フラッシュボタン（フラッシュ）.......................... p.41
15 OKボタン（OK）....................................... p.4, 5
16 **INFO**ボタン（表示切替）
.... p.27, 30, 40, 42, 44, 48
17 **MENU**ボタン p.6

モニタ

撮影モード表示

1 電池残量.. p.22
2 カード書き込み中.................................... p.83
3 手ぶれ補正.. p.53
4 フラッシュ（RC）.................................... p.85
5 コンバージョンレンズ........................ p.53, 86
6 ワールドタイム.. p.67
7 AFターゲットマーク.......................... p.25, 41
8 ヒストグラム.. p.27
9 ISO感度 p.43
10 ピクチャーモード.................................... p.43
11 ホワイトバランス.................................... p.44
12 ドライブ/セルフタイマー......................... p.42
BKT p.52
13 アスペクト.. p.45
14 画像サイズ(静止画) p.45
15 ムービーサイズ.. p.46
16 連続撮影可能時間(ムービー) p.84
17 撮影可能枚数(静止画) p.24, 84
18 使用メモリ.. p.83
19 上：フラッシュ補正バー.......................... p.47
下：露出補正バー.................................... p.42
20 露出補正.. p.42
21 絞り値 p.25, 33, 34
22 シャッター速度.......................... p.25, 33, 34
23 撮影モード.. p.3, 32
24 顔優先 p.48
25 AF方式.. p.40
26 NDフィルタ.. p.48
27 測光.. p.47
28 フラッシュ補正.. p.47
29 フラッシュ.. p.41
フラッシュ発光予告・フラッシュ充電 p.75

再生モード表示

1 電池残量.. p.22
2 プリント予約/枚数........................... p.72/p.70
3 録音... p.55, 58
4 プロテクト... p.60
5 使用メモリ... p.83
6 コマ番号/撮影総枚数（静止画）.................. p.27
再生時間/録画時間（ムービー）.................. p.28
7 ヒストグラム p.27
8 ISO感度 p.43
9 ホワイトバランス..................................... p.44
ホワイトバランス補正.............................. p.51
10 ファイル番号
11 日時.. p.22
12 フラッシュ補正....................................... p.47
13 測光... p.47
14 アスペクト... p.45
15 ピクチャーモード.................................... p.43
16 画像サイズ（静止画）.................................. p.45
ムービーサイズ（ムービー） p.46
17 撮影モード... p.3
18 シャッター速度........................... p.25, 33, 34
19 絞り値 p.25, 33, 34
20 露出補正... p.42

目次

各部の名前 9

カメラ本体 9
モニタ 11

カメラを準備する 17

ストラップとレンズキャップを取り付ける....................17
電池とSD/SDHC/SDXCメモリーカード(市販)を入れる 17
電池の充電と付属のCD-ROMからのセットアップを行う 18
付属のUSB-ACアダプタで充電する....................21
日時・地域・表示言語を設定する 22

撮影する・再生する・消去する 24

最適な絞り値とシャッター速度で撮る[プログラムオート] 24
ムービーを撮る....................25
ズームを使う 26
撮影情報表示を切り替える 27
撮った画像を再生する....................27
再生中の画像を消去する(1コマ消去)....................29
インデックスビュー・拡大表示 30
画像情報表示を切り替える 30
連続撮影した画像を再生する....................31
パノラマ画像を再生する 31

撮影モードを使いこなす 32

カメラまかせで撮影する(iAUTO iオート) 32
絞りを決めて撮影する(**A** 絞り優先)....................33
シャッター速度を決めて撮影する(**S** シャッター優先) 33
絞りとシャッター速度を自分で決める(**M** マニュアル) 34
保存した設定で撮影する(**C** カスタムモード) 34
暗い場所で撮影する(ローライト) 34
撮影シーンに合ったモードを使う(**SCN** シーンモード) 35
特殊な効果をかけて撮影する(**ART** アートフィルター) 38

撮影機能を使いこなす 40

ピントの合わせ方を設定する/近づいて大きく撮る 40
ピントの位置を自分で決める 41
フラッシュを使う 41
連続写真を撮影する/セルフタイマーを使う 42
明るさを調節する(露出補正) 42
モニタを明るくする 42
撮影感度を選ぶ(ISO感度) 43
画像の仕上がりを設定する 43
自然な色合いに調整する(ホワイトバランス) 44
アスペクト比を設定する 45
静止画の画像サイズを選ぶ 45
ムービーの画像サイズを選ぶ 46
フラッシュの発光量を調節する 47
明るさを測る方法を選ぶ(測光) 47
減光(ND)フィルタを使用する 48
顔優先機能を使う 48

撮影に関連するメニュー 49

撮影機能を初期設定に戻す[撮影設定リセット] 49
画像の色調を選ぶ[ピクチャーモード] 49
自然な色合いに調整する[WBモード] 50
画像サイズM/Sのピクセルサイズと圧縮率を設定する[MS設定] 51
フラッシュの設定をする[フラッシュ設定] 52
露出差と撮影枚数を設定する[ブラケット設定] 52
光学ズームより大きく撮る[デジタルズーム] 53
撮影時の手ぶれを補正する[手ぶれ補正] 53
コンバージョンレンズを使って撮る[ ] 53
補助光を使って暗いところの被写体にピントを合わせやすくする
[AFイルミネータ] 54
撮影直後に画像を確認する[撮影確認] 54
アイコン表示を設定する[Info Off表示] 54
パノラマ撮影の設定をする[パノラマ] 55
ムービーの画質を選ぶ[ムービーサイズ] 55
ムービー撮影時に音声を録音する[ムービー録音] 55

再生・編集・プリントに関連するメニュー 56

静止画を自動再生する[スライドショー] 56
撮影した画像を編集する[RAW編集] / [JPEG編集] 56
静止画に音声を追加する[録音] 58
画像データに印刷設定を記録する[プリント予約] 59
画像を消去する[消去] 59
画像を消去できないようにする[プロテクト] 60
画像を回転させる[回転] 60

カメラの設定に関連するメニュー 61

お気に入りの設定を登録する[カスタムモード登録] 61
データを完全に消去する[内蔵メモリ初期化] / [カード初期化] 61
内蔵メモリからカードへ画像をコピーする[データコピー] 61
カメラと他の機器の接続方法を選ぶ[USB接続モード] 62
▶ボタンで電源を入れる[再生ボタン起動] 62
カメラの電子音を選ぶ・音量を調節する[音設定] 62
画像ファイル名の連番をリセットする[ファイル名メモリー] 63
CCDと画像処理機能を調整する[ピクセルマッピング] 63
モニタの明るさを調整する[モニタ調整] 63
テレビで画像を再生する[テレビ出力] 64
撮影の合間に電池の消費を抑える[スリープ時間] 66
表示言語を切り替える[言語] 66
日付・時刻を設定する[日時設定] 66
自宅と訪問先を設定して日時表示を切り替える[ワールドタイム] 67

プリントする 68

ダイレクトプリント(PictBridge) 68
プリンタの標準設定で画像をプリントする[かんたんプリント] 68
プリンタの設定を変えてプリントする[カスタムプリント] 69
プリント予約(DPOF) 72
1コマずつプリント予約する[1コマ予約] 72
カード内の画像を全て1枚ずつプリント予約する[全コマ予約] 73
すべてのプリント予約を解除する 73
1コマずつプリント予約を解除する 74

使い方のヒント 75

故障かな？と思ったら 75
エラーメッセージ 76
撮影のヒント 77
　ピント 77
　手ぶれ 78
　露出(明るさ) 78
　色合い 79
　画質 79
　電池 79
再生・編集のヒント 79
　再生 79

資料 80

アフターサービス 80
お手入れ 80
カメラの保管 81
電池/USB-ACアダプタについて 81
パソコンに接続して電池を充電する 81
別売のUSB-ACアダプタを使う 81
海外での使用について 82
SD/SDHC/SDXCメモリーカード(カード)を使う 82
電子ビューファインダー（別売)を使う 85
専用フラッシュ（別売)を使う 85
コンバージョンレンズ(別売) 86
ステレオマイクセット(SEMA–1)（別売) 86
リモートケーブル(RM-UC1)（別売) 86
防水プロテクター（PT-050)（別売) 86
安全にお使いいただくために 87
　製品の取り扱いについてのご注意 87
　電池についてのご注意 88
　USB-ACアダプタについてのご注意 89
　使用上のご注意 90
　その他のご注意 91
仕様 93

カメラを準備する

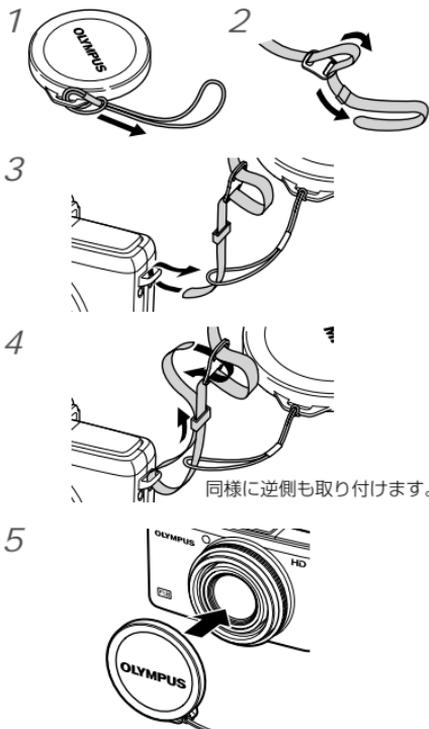
ストラップとレンズキャップを取り付ける

1 2

3

4

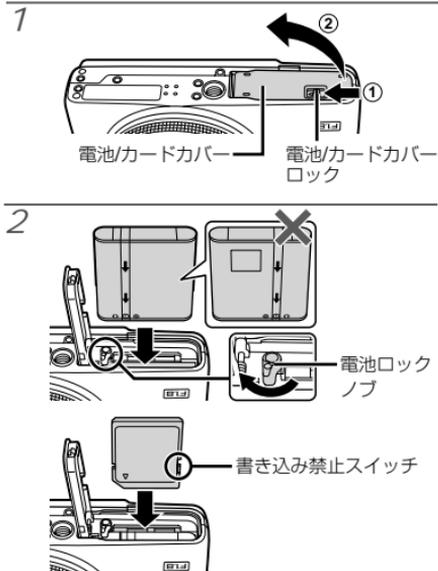
同様に逆側も取り付けます。

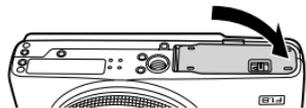
5

! 最後にストラップを少し強めに引っ張り、抜けないことを確認してください。

電池とSD/SDHC/SDXCメモリーカード(市販)を入れる

! SD/SDHC/SDXCメモリーカード以外は、絶対にカメラに入れないでください。

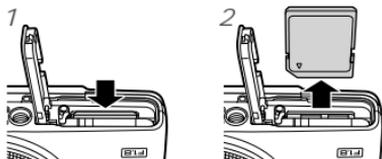
1

2

- 電池は⊕を電池ロックノブ側にして図のように入れてください。
  電池の外装にキズ等のダメージを加えますと、発熱・破裂のおそれがあります。
- 電池ロックノブを矢印の向きに押しながら電池を入れます。
- 電池を取り出すには、電池ロックノブを矢印の向きに押してロックを外してから取り出します。
- 電池/カードカバーの開け閉めの際は、電源を切ってください。
- カメラをご使用の際は、必ず電池/カードカバーを閉じてください。
- カードをまっすぐに差し、カチッと音がするまで押し込んでください。
- カードのコンタクトエリアには直接手を触れないでください。

3

- このカメラはSD/SDHC/SDXCメモリーカード（市販）を入れなくても、内蔵メモリを使って撮影することができます。「SD/SDHC/SDXCメモリーカード（カード）を使う」（p. 82）
- 「内蔵メモリとSD/SDHC/SDXCメモリーカードの撮影可能枚数（静止画）/連続撮影可能時間（ムービー）」（p. 84）

SD/SDHC/SDXC**メモリーカードを取り出すには**

1

2

- カチッと音がするまでカードを押しこみ、ゆっくり戻してから、カードをつまんで取り出します。

電池の充電と付属のCD-ROMからのセットアップを行う

カメラとパソコンを接続して、電池の充電と付属のCD-ROMからのセットアップを行います。

- 付属のCD-ROMを使ったカメラのユーザー登録、および［ib］（PC用ソフトウェア）のインストールは、Windowsのみの対応となります。

カメラとパソコンを接続している間は、カメラの電池を充電することができます。

  - 充電中はカメラの動作ランプが点灯し、充電が完了すると消えます。

- 充電時間は最長で約3時間です。
- カメラの動作ランプが点灯しない場合は、接続が正しくないか、充電池/カメラ/パソコン/USBケーブルに異常がある可能性があります。
- 動作環境は、Windows XP（SP2 以上）/ Windows Vista / Windows 7 をおすすめします。上記以外の場合は、「付属のUSB-ACアダプタで充電する」（p. 21）をご覧ください。

Windows

1 パソコンのCD-ROMドライブに、付属のCD-ROMを入れる。

Windows XPの場合

- 「セットアップ」画面が表示されます。

Windows Vista / Windows 7 の場合

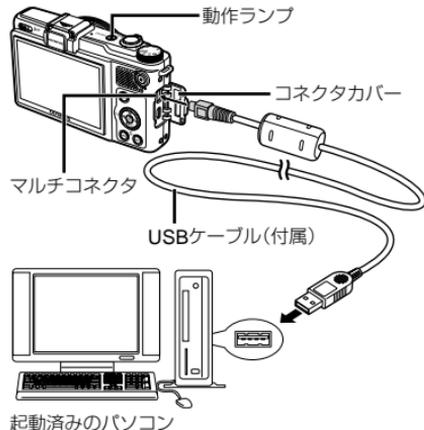
- 自動起動の画面が表示されますので、「OLYMPUS Setup」をクリックしてください。「セットアップ」画面が表示されます。

「セットアップ」画面が表示されない場合は、スタートメニューから「マイコンピュータ」（Windows XP）/「コンピュータ」（Windows Vista）/「コンピューター」（Windows 7）をクリックし、次にCD-ROM（OLYMPUS Setup）のアイコンをダブルクリックして「OLYMPUS Setup」ウィンドウを開きます。最後に、「Launcher.exe」をダブルクリックしてください。

「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、「はい」または「続行」をクリックしてください。

2 カメラをパソコンに接続する。

カメラをパソコンに接続しても、カメラの画面に何も表示されない場合、電池残量が著しく不足している可能性があります。カメラとパソコンを接続した状態で電池を充電してから、一旦接続を外し、接続し直してください。

接続方法

3 ユーザー登録を行う。

- 「ユーザー登録」ボタンをクリックし、画面のメッセージに従って操作を行ってください。

4 OLYMPUS Viewer 2、［ib］（PC用ソフトウェア）のインストールを行う。

- インストールを行う前に動作環境を確認してください。
- 「OLYMPUS Viewer 2」または「OLYMPUS ib」ボタンをクリックし、画面のメッセージに従ってインストールを行ってください。

OLYMPUS Viewer 2	
OS	Windows XP（SP2 以上）/ Windows Vista / Windows 7
CPU	Pentium 4 1.3GHz 以上
RAM	1GB 以上（2GB 以上推奨）
HDDの空き容量	1GB 以上
モニタ	1024×768 ドット以上、65,536色以上（1,677万色以上推奨）

［ib］	
OS	Windows XP（SP2 以上）/ Windows Vista / Windows 7
CPU	Pentium 4 1.3GHz 以上（動画を扱う場合：Pentium D 3.0 GHz 以上）
RAM	512MB 以上（1GB 以上推奨） （動画を扱う場合：1GB 以上、2GB以上推奨）
HDDの空き容量	1GB 以上
モニタ	1024×768 ドット以上、65,536色以上（1,677万色以上推奨）
グラフィックデバイス	64MB 以上のグラフィックメモリ、DirectX 9 以上に対応したグラフィックドライバ

* ソフトウェアの詳しい使い方は、各ソフトウェアのヘルプをご参照ください。

5 取扱説明書をインストールする。

- 「カメラの取扱説明書」ボタンをクリックし、画面のメッセージに従ってインストールを行ってください。

Macintosh

1 パソコンのCD-ROMドライブに、付属のCD-ROMを入れる。

- デスクトップにCD-ROM（OLYMPUS Setup）アイコンが表示されますので、CD-ROMアイコンをダブルクリックしてください。
- 「Setup」アイコンをダブルクリックすると、「セットアップ」画面が表示されます。

2 OLYMPUS Viewer 2のインストールを行う。

- インストールを行う前に動作環境を確認してください。
- 「OLYMPUS Viewer 2」ボタンをクリックし、画面のメッセージに従ってインストールを行ってください。

OLYMPUS Viewer 2	
OS	Mac OS X v10.4.11–v10.6
CPU	Intel Core Solo / Duo 1.5GHz 以上
RAM	1GB 以上(2GB 以上推奨)
HDDの空き容量	1GB 以上
モニタ	1024×768 ドット以上、32,000色以上(1,677万色以上推奨)

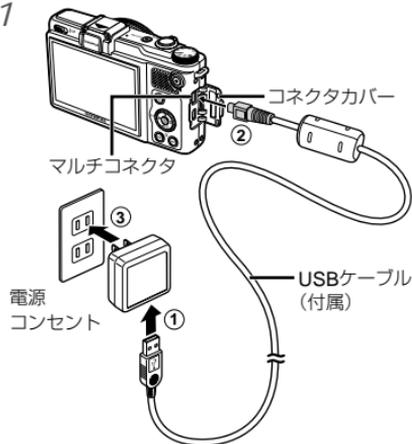
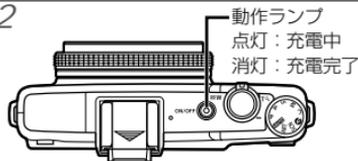
* 言語を変更したい場合は、言語コンボボックスからご使用の言語を選択してください。
ソフトウェアの詳しい使い方は、ソフトウェアのヘルプをご参照ください。

3 取扱説明書をコピーする。

- 「カメラの取扱説明書」ボタンをクリックし、取扱説明書の入ったフォルダを開きます。お使いになる言語の取扱説明書をパソコンにコピーしてください。

付属のUSB-ACアダプタで充電する

付属のUSB-ACアダプタ F-2AC（以降USB-ACアダプタと呼びます）は充電及び再生用です。USB-ACアダプタをカメラに接続しているときは、撮影できません。

1

2

お買い上げのとき、電池は十分に充電されていません。お使いになる前に、動作ランプが消えるまで（最長約3時間）電池を充電してください。

- 電池の充電中に、動作ランプが点灯しない場合は、接続が正しくないか、充電池/カメラ/USB-ACアダプタが壊れている可能性があります。
- 電池とUSB-ACアダプタについては「電池/USB-ACアダプタについて」（p. 81）をご覧ください。
- パソコンに接続している間も、電池を充電することができます。充電時間はパソコンなどの性能により大きく異なります。（パソコンなどの性能によっては10時間程度かかる場合もあります。）

電池の充電時期

次のエラーメッセージが表示されたら電池を充電してください。

モニタ左上　　エラーメッセージ

日時・地域・表示言語を設定する

設定した日時は、撮影した画像のファイル名、日付プリントなどに反映されます。また、モニタに表示されるメニュー表示や、エラーメッセージの言語を選ぶことができます。

1. **ON/OFF**ボタンを押して電源を入れる。
   - 日時を設定していないと、日時設定画面が表示されます。

日時設定画面

2. △▽で[年]を選ぶ。

3 ▷を押して[年]を確定する。

4 手順2、3と同様に、△▽◁▷で[月]、[日]、[時刻]（時、分）、[年/月/日]（日付の順序）を設定する。

「分」を設定中に0秒の時報に合わせてⓞボタンを押すと、正確に時刻を合わせることができます。

設定した日時を変更するときは、メニューから設定します。[日時設定]（p. 66）

5 ◁▷で自宅の地域を選び、ⓞボタンを押す。

- △▽で[サマータイム]の設定ができます。

設定した地域を変更するときは、メニューから設定します。[ワールドタイム]（p. 67）

6 △▽◁▷で言語を選び、ⓞボタンを押す。

設定した言語を変更するときは、メニューから設定します。[]（言語設定）（p. 66）

撮影する・再生する・消去する

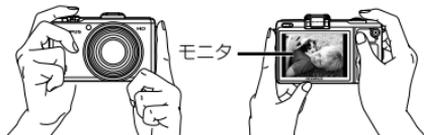
最適な絞り値とシャッター速度で撮る［プログラムオート］

カメラまかせの撮影をしながら、必要に応じて露出補正やホワイトバランスなど多彩な撮影メニュー機能を変更できます。

1 レンズキャップを外す。

2 モードダイヤルを**P**に合わせ、**ON/OFF**ボタンを押して電源を入れる。

電源を切るときはもう１度**ON/OFF**ボタンを押します。

3 カメラを構えて構図を決める。

横位置

縦位置

カメラを構えるときは、フラッシュに指などがかからないようご注意ください。

4 シャッターボタンを半押しして、撮りたいもの(被写体)にピントを合わせる。

- 被写体にピントが合うと露出が固定され(シャッター速度、絞り値が表示され)、AFターゲットマークが緑色に点灯します。
- AFターゲットマークが赤く点滅したときは、ピントが合っていません。もう一度やり直してください。

「ピント」(p. 77)

5 カメラが揺れないよう、シャッターボタンを静かに全押しして撮影する。

撮影確認画面

撮影中に画像を再生するには

▶ボタンを押すと、画像を再生できます。撮影に戻るには、▶ボタンを押すか、シャッターボタンを半押ししてください。

ムービーを撮る

1 ◉ボタンを押して撮影をはじめる。

設定している撮影モードの効果がムービーに反映されます。撮影モードによっては効果が反映されないものもあります。

[アートフィルター](p. 38)で撮影すると、表示される撮影時間が実際の時間と異なる場合があります。[ART5](ジオラマ)では高速再生となるため、撮影時間表示が再生時の時間経過に合わせた表示となり、時間の進みが遅くなります。

2 ◉ボタンをもう一度押して撮影を終了する。

音声を同時に録音します。

ズームを使う

ズームレバーを回して撮影する範囲を調節します。

広角(W)側　望遠(T)側

ズームバー

光学ズーム：4倍
デジタルズーム：4倍

より大きく撮るには[デジタルズーム]

ズームバー表示の違いでズームの状態がわかります。[デジタルズーム](p. 53)と画像サイズ(p. 45)の設定によって表示が異なります。

[デジタルズーム]が[Off]のとき

画像サイズ	ズームバー表示
3648×2736	W T 光学ズーム領域
その他の画像サイズ	W T ST 画像の切り出しで拡大する領域[*1]

[デジタルズーム]が[On]のとき

画像サイズ	ズームバー表示
3648×2736	W T デジタルズーム領域
その他の画像サイズ	W T 画像の切り出しで拡大する領域[*1] デジタルズーム領域

[*1] 少ない画素数のデータを多い画素数に変換する処理を行わないため、これによる画質の劣化はありません。ただし、拡大できる倍率は設定した画像サイズにより異なります。

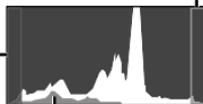
ズームバーが赤く表示されているときは、画像が粗くなる可能性があります。

撮影情報表示を切り替える

画面上の情報表示を消したり、構図を確認するために罫線を表示するなど、状況に応じて画面表示を切り替えることができます。

1 **INFO**ボタンを押す。

- 押すたびに撮影情報表示が切り替わります。「撮影モード表示」（p. 11）

ヒストグラム表示の意味

撮った画像を再生する

1 ▶ボタンを押す。

再生画像

2 スクロールダイヤルを回転させて画像を選ぶ。

- ◁▷を押しても、スクロールダイヤルの回転と同様の効果が得られます。

! スクロールダイヤルを回転させ続けると、早送り/早戻しします。◁▷の長押しでも、同じ効果が得られます。

! 画像の表示サイズを変えることができます。「インデックスビュー・拡大表示」（p. 30）

音声を再生するには

画像に録音した音声を再生するには、画像を選び、㊀ボタンを押します。音声が録音されている画像には、♪アイコンが表示されます。

［録音］（p. 58）

音声再生中

ムービーを再生するには

ムービーを選び、㊀ボタンを押します。

ムービー

ムービー再生中の操作

再生中

一時停止する/再生を再開する	㊀ボタンを押すと、一時停止します。一時停止、早送り、巻き戻し中に㊀ボタンを押すと、再生を再開します。
早送りする	▷を押すと、早送りをします。さらに▷を押すと、早送りの速度が早くなります。
巻き戻しする	◁を押すと、巻き戻しします。◁を押すたびに巻き戻しの速度が早くなります。
音量を調節する	スクロールダイヤルを回転させて、または△▽を押して、音量を調整します。

一時停止中の操作

一時停止中

頭出しする	△で先頭のコマを、▽で最後尾のコマを表示します。
コマ送りする/コマ戻しする	• **スクロールダイヤルで操作** スクロールダイヤルを回転させると、コマ送り／コマ戻しします。回転させ続けると、再生／逆再生します。 • **◁▷で操作** ▷または◁を押すと、コマ送り／コマ戻しします。▷や◁を押している間は、再生／逆再生します。
再生を再開する	㊪ボタンを押すと、再生を再開します。

ムービー再生を中止するには

MENUボタンを押します。

再生中の画像を消去する(1コマ消去)

1 消去する画像の再生中に▽（🗑）を押す。

2 △▽で[消去]を選び、㊪ボタンを押す。

[全コマ消去]（p. 59)や[選択消去]（p. 59)を選ぶと、複数の画像をまとめて消去することができます。

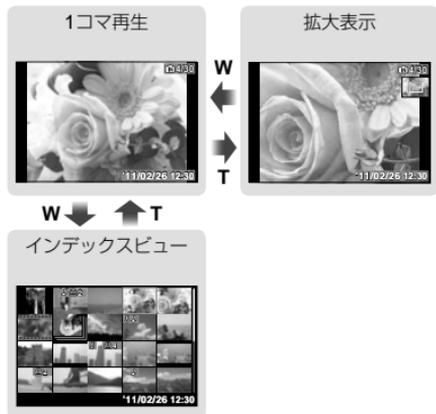
インデックスビュー・拡大表示

インデックスビューでは、すばやく目的の画像を選ぶことができます。拡大表示(最大で10倍)では画像を細部まで確認することができます。

1 ズームレバーを回す。

1コマ再生

拡大表示

W　T

インデックスビュー

インデックスビューで画像を選ぶには

△▽◁▷で画像を選び、㊋ボタンを押すと、選んだ画像の1コマ再生に戻ります。

拡大表示で画面をスクロールするには

△▽◁▷で再生位置を移動できます。

画像情報表示を切り替える

撮影時の設定内容を切り替えて表示することができます。

1 **INFO**ボタンを押す。

- 押すたびに画像情報表示が切り替わります。

通常

詳細

「ヒストグラム表示の意味」(p. 27)

連続撮影した画像を再生する

次の機能で連続撮影した画像は、最初の1コマ目のみ表示されます。
[連写]、[高速連写1]、[高速連写2]

1 再生中に連写で撮影した画像を選ぶ。

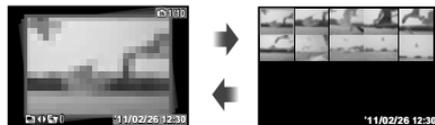
「撮った画像を再生する」(p. 27)

連写で撮影した画像

自動再生するには

OKボタンを押します。連写枚数分の画像が自動再生されます。

インデックス表示/通常表示の切り替え

コントロールリングを回して、表示の切り替えを行います。

1コマ目を表示しているときに[プロテクト](p. 60)、[回転](p. 60)、[プリント予約](p. 59)、[1コマ消去](p. 59)を行うと、連続撮影したすべての画像に設定されます。連続撮影した個別の画像に設定するときは、インデックス表示にしてから設定してください。

パノラマ画像を再生する

[オート]、[マニュアル]で合成したパノラマ画像をスクロール再生することができます。

「パノラマ撮影をする([パノラマ]モード)」(p.36)

1 再生中にパノラマ画像を選ぶ。

「撮った画像を再生する」(p.27)

2 OKボタンを押す。

現在再生中の範囲

パノラマ画像再生中の操作

拡大/縮小: OKボタンを押すと、一時停止します。さらにズームレバーを回すと、拡大または縮小します。
再生方向: △▽◁▷を押すと、一時停止して押したボタンの方向にスクロールします。
一時停止: OKボタンを押す。
スクロールを再開: OKボタンを押す。
再生を中止: **MENU**ボタンを押す。

撮影モードを使いこなす

撮影モードを変更するには

撮影モード(iAUTO、**P**、**A**、**S**、**M**、**C**、◉、**SCN**、**ART**)はモードダイヤルで切り替えることができます。
「モードダイヤル」(p.3)

! は、初期設定を表します。

カメラまかせで撮影する(iAUTO iオート)

カメラが撮影シーンに最適な撮影モードを[ポートレート] / [風景] / [夜景&人物] / [スポーツ] / [マクロ] / [ローライト]の中から自動で選択します。シャッターボタンを押すだけで撮影シーンにあった撮影ができるフルオートモードです。

1 モードダイヤルをiAUTOにする。

カメラが判別したシーンのアイコンに切り替わります。

! 撮影シーンによっては、意図した撮影モードにならない場合があります。

! カメラが最適なモードを判定できない場合は、[プログラムオート]での撮影になります。

! [iオート]では、設定できる機能に制限があります。

ライブガイドを使う

[iオート]ではライブガイドで設定の変更ができます。

ガイド項目
• 色の鮮やかさを変える • 色合いを変える • 明るさを変える • 背景をぼかす • 撮影のヒント

① ⓞボタンを押してライブガイドを表示する。

② △▽でガイド項目を選択し、ⓞボタンを押す。

ガイド項目

③ △▽でレベルを選択し、効果や説明を確認する。

● シャッターボタンを半押しすると設定が確定します。

レベルバー

④ シャッターボタンを押して撮影する。
- **MENU**ボタンを押すと、ライブガイドは終了します。

ライブガイドでRAW設定時、画質は自動的にLN＋RAWに設定されます。

ライブガイド設定はRAW画像には適用されません。

ライブガイドの設定レベルによっては、画像の粗さが強調される場合があります。

ライブガイドの設定レベルを変えても、効果をライブビューであまり確認できない場合があります。

ライブガイドではフラッシュは無効です。

ライブガイド項目を変更すると、前の項目の設定はキャンセルされます。

ライブガイドの設定がカメラの連動範囲外になると、白く飛んだり暗い画像になる場合があります。

絞りを決めて撮影する（A 絞り優先）

Aモードは、絞り値を設定するとカメラが適正なシャッター速度を自動的に設定する露出モードです。

1 モードダイヤルを**A**にする。

2 コントロールリングを回して絞り値を設定する。

絞り値

露出が適正でない場合は、絞り値が赤く表示されます。

シャッター速度を決めて撮影する（S シャッター優先）

Sモードは、シャッター速度を設定するとカメラが適正な絞り値を自動的に設定する露出モードです。

1 モードダイヤルを**S**にする。

2 コントロールリングを回してシャッター速度を設定する。

シャッター速度

露出が適正でない場合は、シャッター速度が赤く表示されます。

絞りとシャッター速度を自分で決める（M マニュアル）

Mモードは、絞り値とシャッター速度を自分で設定する露出モードです。シャッターボタンを押している間露光し続けるバルブ撮影にも設定できます。

1 モードダイヤルを**M**にする。

2 コントロールリングを回して絞り値を設定する。

絞り値

3 △を押した後、スクロールダイヤルを回してシャッター速度を設定し、Ⓐボタンを押して設定を確定する。

- シャッター速度は1/2000 ～ 60秒、および[BULB]に設定できます。

シャッター速度

Mモードでは、露出補正はできません。

露出が適正でない場合は、絞り値やシャッター速度が赤く表示されます。

保存した設定で撮影する（C カスタムモード）

Cモードは、撮影設定をあらかじめ保存しておき、その設定を呼び出して撮影できます。設定は、セットアップメニューの[カスタムモード登録]（p. 61）で保存します。

1 モードダイヤルを**C**にする。

暗い場所で撮影する（ローライト）

（ローライト）モードは、暗い場所でカメラを手持ちで撮影する場合に使用します。

1 モードダイヤルをにする。

撮影シーンに合ったモードを使う（SCN シーンモード）

1 モードダイヤルを**SCN**にする。

2 △▽でシーンに合った項目を選び、Ⓞボタンを押して確定する。

選択した[シーンモード]のアイコン

[シーンモード]には、撮影シーン別に最適な撮影設定がプログラムされています。そのため、モードによっては後から設定を変更できない機能があります。

項目	用途
eポートレート/ポートレート/風景/夜景[*1]/夜景＆人物/スポーツ/屋内撮影/自分撮り/夕日[*1]/打ち上げ花火[*1]/多重露光/料理/文書/ビーチ＆スノー/水中ワイド/水中マクロ/ペット/パノラマ	撮影シーンに合ったモードで撮影する。

[*1] 被写体が暗いときは、ノイズリダクション機能が自動的に働きます。そのときは撮影時間が通常の2倍になり、その間次の撮影はできません。

[eポートレート]はRAW画像には適用されません。

[eポートレート]でRAWおよびJPEG+RAW設定時は、RAW画像と効果適用後のJPEG（M（2560×1920））が保存されます。

[eポートレート]でJPEG設定時は、効果適用前（設定画質）と適用後（M（2560×1920））の2枚を保存します。

重ね撮りするには（[多重露光]モード）

① △▽で[多重露光]を選び、Ⓞボタンを押して確定する。

② シャッターボタンを押して1コマ目を撮影する。
- 保存された画像が背景として表示されます。

1コマ目を撮り直すときは、**MENU**ボタンを押してからもう一度シャッターボタンを押します。

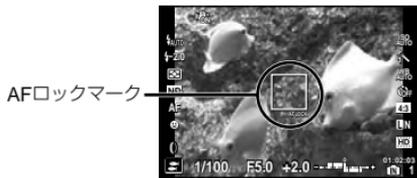
③ 1コマ目の画像を背景に、2コマ目に撮る位置を調整してから、シャッターボタンを押す。
- 合成された画像が保存されます。

水中撮影をするには

[水中ワイド]、[水中マクロ]を選びます。

水中で使用する場合は、防水プロテクタを使用してください。

水中撮影でピント位置を固定するには（AFロック）

[水中ワイド]、[水中マクロ]のときに▽を押します。

- ロックを解除するには、もう一度▽を押してAFロックマークを消します。

ペットなど動きのある被写体を撮るには（[ペット]モード）

1. △▽で[ペット]を選び、OKボタンを押して確定する。
2. AFターゲットマークを被写体に合わせてシャッターボタンを半押しする。
   - 被写体を認識すると、被写体の動きに合わせてAFターゲットマークが動き、自動でピントを合わせ続けます。
   「動いている被写体に自動でピントを合わせ続けるには[追尾AF]」（p. 40）

パノラマ撮影をする（[パノラマ]モード）

パノラマ撮影の設定については、「パノラマ撮影の設定をする」（p. 55）をご覧ください。

1. △▽で[パノラマ]を選び、OKボタンを押して確定する。

[オート]で撮影するには

1. シャッターボタンを押して1コマ目を撮影する。
2. 2コマ目を撮る方向にカメラを少し向ける。

左から右へ画像をつなぐ場合

3. カメラをゆっくりとまっすぐに動かし、ポインタがターゲットマークに重なる位置でカメラを止める。
   - 自動的にシャッターが切れます。

2コマだけ合成するときは、3コマ目の画像を撮影する前にOKボタンを押します。

④ 手順③と同様に3コマ目を撮影する。
- 3コマ目の撮影が終わると自動的に合成処理が行われ、合成された画像が表示されます。

撮影の途中で合成を中止するには、**MENU**ボタンを押します。

自動でシャッターが切れないときは、[マニュアル]または[PC]を選びます。

[マニュアル]で撮影するには

① ◁▷で画像をつなぐ方向を選ぶ。

② シャッターボタンを押して1コマ目を撮影する。

1コマ目

③ つなぎ目1と2の部分が重なるように2コマ目の構図を決める。

2コマ目の構図

④ シャッターボタンを押して2コマ目を撮影する。

2コマだけ合成するときは、3コマ目の画像を撮影する前に㊐ボタンを押します。

⑤ 手順③~④と同様に3コマ目を撮影する。
- 3コマ目の撮影が終わると自動的に合成処理が行われ、合成された画像が表示されます。

撮影の途中で合成を中止するときは、**MENU**ボタンを押します。

[PC]で撮影するには

① △▽◁▷で画像をつなぐ方向を選ぶ。

② シャッターボタンを押して1コマ目を撮影し、2コマ目の構図で構える。

1コマ目撮影前

1コマ目撮影後

- 1コマ目を撮影すると、画面上にある白い枠内の画像が切り取られ、移動方向と反対側に表示されます。2コマ目以降は、表示された画像を目安に、次の画像が重なる構図で撮影します。

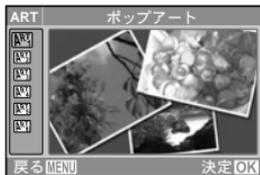
③ 手順②を繰り返して必要なコマ数を撮影し、最後に㊋ボタンまたは**MENU**ボタンを押す。

最大10コマまでパノラマ撮影が可能です。

パノラマ写真の合成手順はPC用ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

特殊な効果をかけて撮影する（ART アートフィルター）

お好みの特殊効果を使って、表現豊かな撮影ができます。

1 モードダイヤルを**ART**にする。

2 △▽でお好みに合ったモードを選び、㊋ボタンを押して確定する。

設定した[アートフィルター]のアイコン

撮影モード	項目
アートフィルター	❶ ポップアート ❷ ファンタジックフォーカス ❸ ラフモノクローム ❹ トイフォト ❺ ジオラマ ❻ ドラマチックトーン

- [アートフィルター]には、それぞれの効果に最適な撮影設定がプログラムされています。そのため、モードによっては後から設定を変更できない機能があります。
- [アートフィルター]でRAW設定時、画質は自動的にLN+RAWに設定されます。
- [アートフィルター]の効果はRAW画像には適用されません。
- [アートフィルター]の種類によっては、画像の粗さが強調される場合があります。

撮影機能を使いこなす

は、初期設定を表します。

ピントの合わせ方を設定する/近づいて大きく撮る

ピント合わせの方法(フォーカスモード)を選択します。また、マクロを使うと被写体に接近しても、ピントが合い大きく写すことができます。

1 ◁(🌷)を押して、**INFO**ボタンを押す。

2 ◁▷で設定項目を選び、㊋ボタンを押して確定する。

- 設定中に**INFO**ボタンを押すと、AFターゲット選択画面が表示されます。

項目	説明
AF	シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。ピントが合うと、ピピッという音がして、画面に合焦マークとAFターゲットが点灯します。
マクロ	被写体に10cm*1(30cm*2)まで接近して撮影できます。
スーパーマクロ*3	被写体に1cmまで接近して撮影できます。
追尾AF	動いている被写体に自動でピントを合わせ続けます。
MF	任意の位置に手動でピントを合わせることができます。

*1 ズームが最もW(広角)側にあるとき。
*2 ズームが最もT(望遠)側にあるとき。
*3 ズームは自動的に固定されます。

スーパーマクロ撮影のときは、フラッシュ(p. 41)とズーム(p. 26)は設定できません。

動いている被写体に自動でピントを合わせ続けるには[追尾AF]

① AFターゲットマークを被写体に合わせて、シャッターボタンを半押しします。
② 被写体を認識すると、シャッターボタンを半押ししている間被写体の動きに合わせてAFターゲットマークが動き、自動でピントを合わせ続けます。
③ 中止するときは、シャッターボタンを離します。

被写体や撮影状況によっては、ピントを固定できなかったり、被写体を追尾できなくなることがあります。

拡大表示でピントを合わせながら撮影するには[MF]

① **INFO**ボタンを押すと、画面の中央が拡大表示されます。
② スクロールダイヤルを回転させて、手動でピントを合わせます。
- △▽を押しても、スクロールダイヤルの回転と同様の操作ができます。

③ 中止するときは、**INFO**ボタンを押します。

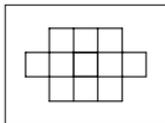
ピントの位置を自分で決める

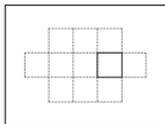
AFターゲットマークの位置を移動させて、被写体が画面中央以外に位置する構図でピントを合わせます。

1 ◁（[▪▪▪]）を押して、AFターゲット選択画面を表示する。

2 △▽◁▷でAFターゲットを選び、㊍ボタンを押して確定する。

- 枠の外へカーソルを移動すると、全ての枠を選択します。

緑の枠が全体を囲んでいる場合

11点のAFターゲットの中からカメラが自動的にピント合わせをします。

緑の枠が個別のAFターゲットを囲んでいる場合

そのAFターゲットでピント合わせをします。

フラッシュを使う

撮影状況や表現方法に合わせてフラッシュ機能を選びます。

1 フラッシュスイッチをスライドしてフラッシュをポップアップする。

2 ▷（⚡）を押して、選択項目を表示する。

3 ◁▷で設定項目を選び、㊍ボタンを押して確定する。

項目	説明
オート発光	暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。
赤目軽減	予備発光を行い、目が赤く写るのを軽減します。
強制発光	フラッシュが必ず発光します。
赤目・強制発光	赤目軽減の予備発光後、フラッシュを必ず発光させます。
発光禁止	フラッシュは発光しません。
Full	マニュアル操作で撮影をする人向け。数値はフラッシュのフル発光光量の1/4、1/16、1/64の光量に設定できます。
1/4	
1/16	
1/64	

❗ 撮影モードによっては、フラッシュ撮影ができない場合があります。

連続写真を撮影する/セルフタイマーを使う

シャッターボタンを押している間、連続撮影ができます。また、セルフタイマーを使うと記念撮影で撮影者自身も写りたいときや、カメラを固定して手ぶれのない静止画を撮りたいときに便利です。

1 ▽(連写/セルフタイマー)を押して、選択項目を表示する。

2 ◁▷で設定項目を選び、OKボタンを押して確定する。

項目	説明
単写	シャッターボタンを押すごとに1コマ撮影します。
連写[*1]	最初の1コマで固定したピント、明るさ(露出)、ホワイトバランスで連続撮影します。
高速連写1	[連写]より高速で連写します。
高速連写2	[高速連写1]より高速で連写します。
BKT[*2]	1コマごとに自動的に設定を変えた画像を撮影します(ブラケット撮影)。
セルフタイマー 12s	セルフタイマーランプが約10秒点灯し、さらに約2秒点滅した後、シャッターが切れます。
セルフタイマー 2s	セルフタイマーランプが約2秒点滅した後、シャッターが切れます。

[*1] 画像サイズ(p. 45)の設定により連写速度は異なります。

[*2] ブラケット撮影をするには、あらかじめ[ブラケット設定](p. 52)で[AE-BKT]や[WB-BKT]を設定しておく必要があります。

- [連写]のとき、フラッシュ(p. 41)の[赤目軽減]は設定できません。また、[高速連写1]、[高速連写2]のときは[発光禁止]に固定されます。
- 画像サイズは、[高速連写1]または[高速連写2]のときは2560×1920以下に制限されます。また、それぞれISO感度は[ISOオート]に固定されます。
- セルフタイマーは撮影のたびに設定しなおしてください。

動作中のセルフタイマーを中止するには

MENUボタンを押します。

明るさを調節する(露出補正)

撮影モード(**iAUTO**、**M**、**SCN**を除く)で、カメラが調節した標準的な明るさ(適正露出)を、撮影意図に応じて明るくしたり暗くしたりできます。

1 △(露出補正)を押して、選択項目を表示する。

2 ◁▷で数値を選択し、OKボタンを押して確定する。

モニタを明るくする

INFOボタンを長押しすると、モニタが明るくなります。10秒間何も操作しないと、元の明るさに戻ります。

撮影感度を選ぶ（ISO感度）

1 ⓞボタンを押してライブコントロールを表示し、△▽でISO感度を選ぶ。

2 ◁▷で設定項目を選び、ⓞボタンを押して確定する。

項目	説明
ISOオート	撮影シーンに応じてカメラが自動的に調整する。
数値	ISO感度を選択した数値に固定する。

ISO感度は、数値が小さいほど感度は低くなりますが、十分に明るいシーンではシャープな画像を撮ることができます。また数値が大きいほど感度は高くなり、暗いシーンでも速いシャッター速度で撮影ができます。ただし感度が高くなるにつれ電気的なノイズが増え、画像が粗くなります。

画像の仕上がりを設定する

画像の色調を選択することができます。また個別に、コントラストやシャープネスなどの画像パラメータを微調整することもできます。調整したパラメータは仕上がり項目ごとに記憶されます。

1 ⓞボタンを押してライブコントロールを表示し、△▽でピクチャーモードを選ぶ。

2 ◁▷で設定項目を選び、ⓞボタンを押して確定する。

項目	説明
Vivid	色鮮やかに仕上げます。
Natural	自然な色合いに仕上げます。
Flat	素材性を重視した仕上がりになります。
Portrait	肌色をきれいに仕上げます。
モノトーン	モノクロ調に仕上げます。

各項目のパラメータを調整するには

撮影メニューから各項目を選択し、さらに▷を押すと、各項目のパラメータを調整できます。［ピクチャーモード］（p. 49）

自然な色合いに調整する（ホワイトバランス）

撮影シーンに応じたホワイトバランスを設定し、より自然な色合いで撮影できます。

1 ㋫ボタンを押してライブコントロールを表示し、△▽でホワイトバランスを選ぶ。

2 ◁▷で設定項目を選び、㋫ボタンを押して確定する。

項目	説明
WB AUTO WBオート	撮影シーンに応じてカメラが自動的に調整する。
晴天	晴れた屋外で撮影する。
日陰	晴れた屋外の日陰で撮影する。
曇天	曇った屋外で撮影する。
電球	電球の灯りで撮影する。
蛍光灯	白色の蛍光灯の灯り(オフィスなど)で撮影する。
水中	水中で撮影する。
ワンタッチ	白かグレーの測定できる被写体があり、特性のわからないフラッシュや光源のときや、光源が複数あって特定できないとき。

[ワンタッチ]の設定

撮影する光源下で白い紙などにカメラを向けて、ホワイトバランスを測定します。

① [ワンタッチ]を選択した後、**INFO**ボタンを押します。

② カメラを白い紙に向けます。
- 紙が画面いっぱいに写るようにカメラを構えます。影の部分ができないようにしてください。

③ シャッターボタンを全押しします。
- [ワンタッチ]画面が表示されます。

④ [実行]を選択して㋫ボタンを押します。
- ホワイトバランスがプリセットホワイトバランスの1つとしてカメラに登録されます。
- 新たに[ワンタッチ]を撮影するまで、カメラに記憶されます。電源を切っても消去されません。

各項目のパラメータを調整するには

撮影メニューから各項目を選択し、さらに▷を押すと、各項目のパラメータを調整できます。[WBモード]（p. 50）

アスペクト比を設定する

撮影時のアスペクト比(横×縦)を変更します。撮影目的に応じた縦横比を[4:3]（基準）/[16:9]/[3:2]/[6:6]から選びます。

1 Ⓞボタンを押してライブコントロールを表示し、△▽でアスペクトを選ぶ。

2 ◁▷で設定項目を選び、Ⓞボタンを押して確定する。

- JPEG形式の画像は、アスペクト比に応じてトリミングされて保存されますが、RAW画像はトリミングされずに、撮影時のアスペクト比情報が付加された状態で記録されます。
- RAW画像再生時は、アスペクト比に応じた枠が表示されます。

静止画の画像サイズを選ぶ

1 Ⓞボタンを押してライブコントロールを表示し、△▽で画像サイズを選ぶ。

2 ◁▷で設定項目を選び、Ⓞボタンを押して確定する。

選択可能な画質モード

選択可能な画質モードはRAWとJPEGです。RAW+JPEGの場合、RAWとJPEGの2種類の画像を同時に記録します。

画像サイズと圧縮率の組み合わせ

JPEGは画像サイズ（L/M/S）と圧縮率（F/N）の組み合わせからできています。

画像サイズ	圧縮率 F (Fine)	圧縮率 N (Normal)	ピクセルサイズ	用途
L(Large)	LF[*1]	LN[*1]	3648×2736	プリントサイズに合わせて選択
M(Middle)	MF	MN[*1]	3200×2400	
			2560×1920	
			1600×1200	
S(Small)	SF	SN[*1]	1280×960	
			1024×768	
			640×480	小さいプリントやホームページ用

[*1] 初期設定

- 画像サイズM、SのピクセルサイズとM圧縮率を変更することが可能です。［MS設定］（p. 51）

「内蔵メモリとSD/SDHC/SDXCメモリーカードの撮影可能枚数（静止画）/連続撮影可能時間（ムービー）」（p. 84）

ムービーの画像サイズを選ぶ

1 ⓚボタンを押してライブコントロールを表示し、△▽でムービーサイズを選ぶ。

2 ◁▷で設定項目を選び、ⓚボタンを押して確定する。

項目	説明
ハイビジョン	ハイビジョン画質（1280×720）のムービーを撮影できます。
スタンダード	標準画質（640×480）のムービーを撮影できます。

フラッシュの発光量を調節する

フラッシュの光で被写体が白くとんでしまったり、全体的にはちょうど良い明るさなのに被写体だけが暗い写真になってしまうときにフラッシュの発光量を調整します。

1 ㊙ボタンを押してライブコントロールを表示し、△▽でフラッシュ補正を選ぶ。

2 ◁▷で数値を選び、㊙ボタンを押して確定する。

- 専用フラッシュの調光モードがMANUALのときは、この設定は働きません。
- 専用フラッシュで発光補正されていると、カメラの発光補正量に加算されて働きます。

明るさを測る方法を選ぶ(測光)

カメラが被写体の明るさを測定する方法を変更します。

1 ㊙ボタンを押してライブコントロールを表示し、△▽で測光を選ぶ。

2 ◁▷で設定項目を選び、㊙ボタンを押して確定する。

項目	説明
ESP	画面全体で明るさのバランスのとれた撮影をする。
中央重点	画面の中央部に重点を置いて、画面全域を平均測光します。
スポット	画面の中央部分を測光します。

- [ESP]のとき、強い逆光下での撮影では、中央が暗く写ることがあります。

減光（ND）フィルタを使用する

カメラに内蔵されている減光（ND）フィルタを使用して撮影することができます。光量を減少できるので、シャッタースピードを遅くしたり、絞り値を小さくしたりできます。

1 Ⓞボタンを押してライブコントロールを表示し、△▽でNDフィルタを選ぶ。

2 ◁▷で［NDフィルタ On］を選び、Ⓞボタンを押して確定する。

顔優先機能を使う

顔優先が［顔優先On］の場合は、人物の顔を検出して枠を表示し、測光の調整やピント合わせを行います。

1 Ⓞボタンを押してライブコントロールを表示し、△▽で顔優先を選ぶ。

2 ◁▷で［顔優先On］を選び、Ⓞボタンを押して確定する。

- 設定中に**INFO**ボタンを押すと、AFターゲット選択画面が表示されます。

3 カメラを被写体に向けます。

- 顔が検出されたら白い枠が表示されます。

4 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

- 枠の顔にピントが合うと、枠が緑に変わります。

5 シャッターボタンを全押しします。

❗ 連写中は最初の1コマのみ顔優先が働きます。

❗ 被写体によっては、顔が検出できないことがあります。

撮影に関連するメニュー

は、初期設定を表します。

撮影機能を初期設定に戻す[撮影設定リセット]

（撮影メニュー）▶ 撮影設定リセット

サブメニュー 2	用途
実行	以下のメニュー機能を初期設定に戻す。 • AF方式（p. 40） • フラッシュ（p. 41） • ドライブ/セルフタイマー（p. 42） • 露出補正（p. 42） • ライブコントロール内の機能（p. 43 ～ 48） • （撮影メニュー）/（ムービーメニュー）内の機能（p. 49 ～ 55）
中止	現在の設定を残す。

画像の色調を選ぶ[ピクチャーモード]

（撮影メニュー）▶ ピクチャーモード

サブメニュー 2	用途
Vivid	色鮮やかに仕上げます。
Natural	自然な色合いに仕上げます。
Flat	素材性を重視した仕上がりになります。
Portrait	肌色をきれいに仕上げます。
モノトーン	モノクロ調に仕上げます。

ライブコントロールを使って設定することもできます。「画像の仕上がりを設定する」（p. 43）

仕上がり項目のパラメータを調整するには

撮影メニューから各項目を選択し、さらに▷を押すと、各項目のパラメータを調整できます。

サブメニュー 3	サブメニュー 4	用途
コントラスト	—	明暗の差を調整する。
シャープネス	—	鮮鋭さを調整する。
階調	オート/標準/ハイキー /ローキー	画像の階調を調整する。
彩度*1	—	色の鮮やかさを調整する。
フィルター効果*2	N:無し/Ye:黄/Or:オレンジ/R:赤/G:緑	フィルター色と同じ色を明るく、補色を暗くした白黒画像にする。
調色*2	N:無し/S:セピア/B:青/P:紫/G:緑	白黒画像に色味をつける。

*1 [モノトーン]以外
*2 [モノトーン]のみ

[標準]以外の階調ではコントラスト調整は反映されません。

ライブコントロールでは、パラメータの調整はできません。

自然な色合いに調整する[WBモード]

（撮影メニュー）▶ WBモード

サブメニュー 2	用途
WB AUTO WBオート	撮影シーンに応じてカメラが自動的に調整する。
晴天	晴れた屋外で撮影する。
日陰	晴れた屋外の日陰で撮影する。
曇天	曇った屋外で撮影する。
電球	電球の灯りで撮影する。
蛍光灯	白色の蛍光灯の灯り(オフィスなど)で撮影する。
水中	水中で撮影する。
ワンタッチ	白かグレーの測定できる被写体があり、特性のわからないフラッシュや光源のときや、光源が複数あって特定できないとき。

ライブコントロールを使って設定することもできます。「自然な色合いに調整する(ホワイトバランス)」(p. 44)

ホワイトバランス補正

オートホワイトバランス、プリセットホワイトバランスそれぞれに、補正値を設定して微調整できます。

① 補正したいホワイトバランスを選択して、▷を押します。

② ◁▷で補正する方向を選択し、△▽で補正値を変更します。

- **A方向（赤 – 青）で補正する場合：**
  +方向で赤味がかり、–方向で青味がかった画像になります。
- **G方向（緑 – 赤紫）で補正する場合：**
  +方向で緑の色味が増し、–方向で赤紫がかった画像になります。

③ ㊙ボタンを押して、設定を終了します。

ライブコントロールでは、ホワイトバランス補正はできません。

画像サイズM/Sのピクセルサイズと圧縮率を設定する［MS設定］

（撮影メニュー）▶ MS設定

サブメニュー 2	サブメニュー 3	用途
ピクセルサイズ	M: 3200×2400/2560×1920/1600×1200 S: 1280×960/1024×768/640×480	画像サイズM/Sのピクセルサイズを設定する。
圧縮率	Fine	高画質で撮影する。
	Normal	標準的な画質で撮影する。

「静止画の画像サイズを選ぶ」（p. 45）

フラッシュの設定をする[フラッシュ設定]

(撮影メニュー) ▶ フラッシュ設定

サブメニュー 2	サブメニュー 3	用途
スローシンクロ	Off/On	遅いシャッター速度でフラッシュを発光させる。
先幕/後幕設定	先幕/後幕	フラッシュ発光のタイミングを切り換える。 ([先幕]はシャッターが開いた直後に発光します。[後幕]はシャッターが閉じる直前に発光することで、移動する被写体の後ろに流れる光を表現できます。)
⚡RCモード	Off/On	ワイヤレスフラッシュ撮影をする。

[⚡RCモード]を[On]にしても、ワイヤレスフラッシュがない場合はフラッシュ撮影できません。

露出差と撮影枚数を設定する[ブラケット設定]

(撮影メニュー) ▶ ブラケット設定

サブメニュー 2		用途
AE BKT[*1]	Off/3f 0.3EV/3f 0.7EV/ 3f 1.0EV/3f 1.3EV/3f 1.7EV	1コマごとに露出を変えた3枚の画像を記録する。 (シャッターボタンを全押しし続けている間に、適正露出、–補正、+補正の順番で撮影します。)
WB BKT	A-B(赤ー青): Off/3f 2step/3f 4step/3f 6step G-M(緑ー赤紫): Off/3f 2step/3f 4step/3f 6step	1回の撮影で、1つの補正方向に対して色合い(ホワイトバランス)を変えた3枚の画像を自動的に記録する。

*1 **P**モードでは、絞り値とシャッター速度、**A**モードではシャッター速度、**S**モードでは絞り値を制御して補正を行います。

ブラケット撮影では、カメラのメモリとカードに設定枚数以上の空きがないと撮影できません。

すでに露出補正またはホワイトバランスの補正を行っている場合は、補正された値を中心としたブラケット撮影が行われます。

光学ズームより大きく撮る [デジタルズーム]

（撮影メニュー）▶ デジタルズーム

サブメニュー 2	用途
Off	デジタルズーム機能なしで撮影する。
On	デジタルズーム機能を使って撮影する。

- [スーパーマクロ]（p. 40）のとき、[デジタルズーム]は設定できません。
- [デジタルズーム]の設定によって、ズームバーの表示が変わります。
「より大きく撮るには」（p. 26）

撮影時の手ぶれを補正する [手ぶれ補正]

（撮影メニュー）▶ 手ぶれ補正

サブメニュー 2	用途
Off	手ぶれ補正機能なしで撮影する（三脚使用時などカメラを固定して撮影するときに設定します）。
On	手ぶれ補正機能を使って撮影する。

- [手ぶれ補正]が[On]のときにシャッターボタンを押すと、手ぶれを補正するためにカメラ内部から音がすることがあります。
- 手ぶれが大きすぎると、補正しきれないときがあります。
- 夜間撮影など、シャッター速度が極端に遅くなるときは、[手ぶれ補正]が効きにくくなることがあります。

コンバージョンレンズを使って撮る [ ]

（撮影メニュー）▶

サブメニュー 2	用途
Off	カメラ本体だけで撮影する。
TCON-17	別売の専用コンバージョンレンズを取り付けて撮影する。

- コンバージョンレンズを取り付けると、内蔵フラッシュの光はけられます（コンバージョンレンズの影が画面に写ります）。
- コンバージョンレンズを取り付けると、ピント合わせに時間がかかることがあります。
- コンバージョンレンズを取り付けるには、コンバージョンレンズアダプタCLA-12（別売）をご使用ください。

補助光を使って暗いところの被写体にピントを合わせやすくする[AFイルミネータ]

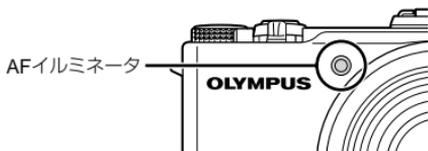
（撮影メニュー）▶ AFイルミネータ

サブメニュー 2	用途
Off	AFイルミネータを使わない。
On	シャッターボタンを半押しして点灯するAFイルミネータを使ってピントを合わせる。

撮影直後に画像を確認する[撮影確認]

（撮影メニュー）▶ 撮影確認

サブメニュー 2	用途
Off	撮影後、モニタで被写体を追いながら次の撮影に備える(撮影した画像を記録中に表示しない)。
On	撮影後、撮影した画像の簡単なチェックをする(撮影した画像を記録中に表示する)。

[On]のときでも、表示中に次の撮影に入ることができます。

アイコン表示を設定する【Info Off 時間】

（撮影メニュー）▶ Info Off 時間

サブメニュー 2	用途
10秒	撮影中、何も操作しないで10秒経過すると、アイコンが自動的に消える。
Hold	撮影中、常にアイコンを表示する。

常にアイコンを表示していると、モニタに焼き付きが発生する場合があります。
「モニタについて」（p. 91）

パノラマ撮影の設定をする[パノラマ]

（撮影メニュー）▶ パノラマ

サブメニュー1	用途
オート	写真を3コマ撮り、カメラで合成する（ターゲットマークとポインタを重ねるように構図を決めるだけで自動的にシャッターが切れます）。
マニュアル	写真を3コマ撮り、カメラで合成する（ガイド枠を目安に構図を決め、手動でシャッターを切ります）。
PC	撮影した画像をPCソフトウェアでパノラマ写真に合成する。

- PCソフトウェアのインストールについては、「電池の充電と付属のCD-ROMからのセットアップを行う」（p. 18）をご覧ください。
- [オート]または[マニュアル]のとき、画像サイズ（p. 45）は1600×1200に固定されます。
- ピント、露出（p. 42）、ズーム位置（p. 26）、ホワイトバランス（p. 44）は、1枚目の撮影で固定されます。
- フラッシュは（発光禁止）（p. 41）に固定されます。

パノラマ撮影をするには

「パノラマ撮影をする（[パノラマ]モード）」（p. 36）

ムービーの画質を選ぶ[ムービーサイズ]

（ムービーメニュー）▶ ムービーサイズ

サブメニュー2	用途
ハイビジョン	ハイビジョン画質（1280×720）のムービーを撮影する。
スタンダード	標準画質（640×480）のムービーを撮影する。

- 「内蔵メモリとSD/SDHC/SDXCメモリーカードの撮影可能枚数（静止画）/連続撮影可能時間（ムービー）」（p. 84）
- ライブコントロールを使って設定することもできます。
「ムービーの画像サイズを選ぶ」（p. 46）

ムービー撮影時に音声を録音する[ムービー録音]

（ムービーメニュー）▶ ムービー録音

サブメニュー2	用途
Off	録音しない。
On	ムービー撮影時に録音する。

再生・編集・プリントに関連するメニュー

静止画を自動再生する[スライドショー]

▶（再生メニュー）▶ スライドショー

サブメニュー2	サブメニュー3	用途
スタート	—	スライドショーを始める。
BGM	Off/ Cosmic/ Breeze/ Mellow/ Dreamy/ Urban	スライドショー中に流す音楽（BGM）を選ぶ。
スライド	すべて/ 静止画/ 動画	スライドショーを実行する範囲を選ぶ。
1コマ再生時間	2~10秒	次の画像に切り換わる間隔を設定する。
ムービー再生	フル/ ショート	ムービー全編を再生するか、途中までを再生するか設定する。

! スライドショーを再生中に▷を押すと1コマ送り、◁を押すと1コマ戻ります。

撮影した画像を編集する【RAW編集】/【JPEG編集】

▶（再生メニュー）▶ 編集 ▶ RAW編集/JPEG編集

① 再生画面で編集する画像を表示し、Ⓞボタンを押します。
- RAW画像の場合は[RAW編集]、JPEG画像の場合は[JPEG編集]が表示されます。

② [RAW編集]または[JPEG編集]を選択してⓄボタンを押します。

[RAW編集]

RAW画像からJPEG画像をつくります。

! カメラに記憶されている撮影の設定に応じた処理が施されます。目的に合わせてあらかじめカメラの設定を変更しておいてください。

[JPEG編集]

次の編集が可能です。

サブメニュー 2	用途
階調オート	逆光時に暗く写った被写体を明るくします。
赤目補正[*1]	フラッシュ撮影で赤くなった目の色を補正します。
トリミング[*2]	画像の一部を切り出します。
アスペクト[*2]	アスペクト比が4:3(基準)の画像のアスペクト比を[3:2] / [16:9] / [6:6]に変更します。アスペクト比変更後、△▽◁▷でトリミング位置を指定します。
モノクロ作成	画像を白黒に変換します。
セピア作成	画像をセピア色に変換します。
鮮やかさ調整	画像の鮮やかさを調整します。
リサイズ[*3]	画像サイズを1280×960、640×480、または320×240に変換します。
eポートレート[*1]	なめらかな肌に補正します。

[*1] 画像によっては補正できない場合があります。
[*2] アスペクト比が4：3(基準)の画像のみ編集できます。
[*3] アスペクト比が4:3(基準)以外の画像は、近い大きさの画像サイズに変換されます。
撮影時の画像サイズより大きなサイズには設定できません。

! 次の場合はJPEG編集できません。
RAWで記録した画像／パソコンで編集した画像／カードの空き容量が不足している場合／他のカメラで撮影した画像

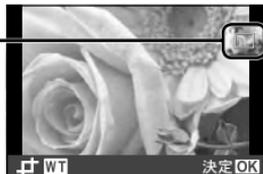
フラッシュ撮影で赤くなった目の色を補正する[赤目補正]

① ◁▷で画像を選び、Ⓞボタンを押す。
- 編集した画像が、別画像として保存されます。

! 画像によっては、補正効果が得られない場合があります。

! 補正により画像が粗くなることがあります。

画像の一部を切り出す[トリミング]

① ◁▷で画像を選び、Ⓞボタンを押す。
② ズームレバーでトリミング枠の大きさを選び、△▽◁▷で枠を移動する。

③ 切り出す範囲が決まったら、Ⓞボタンを押す。
- 編集した画像が、別画像として保存されます。

画像の鮮やかさを調整する[鮮やかさ調整]

① ◁▷で画像を選び、Ⓞボタンを押す。
② △▽で画像を見ながら好みの鮮やかさに調整し、Ⓞボタンを押す。
③ △▽で[実行]を選び、Ⓞボタンを押す。
- 編集した画像が、別画像として保存されます。

画像のサイズを変える[リサイズ]

サブメニュー 3	用途
1280×960	大きいサイズで撮った画像を、ハガキサイズの印刷に適した小さい別画像として保存する。
640×480	大きいサイズで撮った画像を、メール添付用などのために小さい別画像として保存する。
320×240	

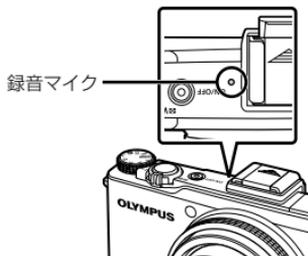
① ◁▷で画像を選び、Ⓞボタンを押す。
② △▽で画像サイズを選び、Ⓞボタンを押す。
- リサイズされた画像が、別画像として保存されます。

静止画に音声を追加する[録音]

▶（再生メニュー）▶ 編集 ▶ 録音

サブメニュー 2	用途
中止	録音しない。
録音スタート	静止画の再生中に最長30秒間、音声を追加(録音)する(撮影メモとしてコメントなどを録音すると便利です)。
消去	静止画に録音した音声を消去する。

[録音スタート]するには

① ◁▷で画像を選ぶ。
② 録音マイクを音源に向ける。

③ △▽で[録音スタート]を選び、Ⓞボタンを押す。
- 録音がはじまります。

[消去]するには

① ◁▷で♪アイコンが表示されている画像を選ぶ。
② △▽で[消去]を選び、Ⓞボタンを押す。
- 音声が消去されます。

画像データに印刷設定を記録する[プリント予約]

▶(再生メニュー)▶ プリント予約

- 「プリント予約(DPOF)」(p. 72)
- プリント予約はカードに記録された静止画だけに設定できます。

画像を消去する[消去]

▶(再生メニュー)▶ 消去

サブメニュー 1	用途
全コマ消去	内蔵メモリまたはカードの画像すべてを消去する。
選択消去	画像を1コマずつ選びながら消去する。
1コマ消去	再生中の画像を消去する。

- 内蔵メモリの画像を消去するときは、カードをカメラに入れないでください。
- カード内の画像を消去するときは、あらかじめカードをカメラに入れてください。
- プロテクトされた画像は消去できません。

[選択消去]するには

① △▽で[選択消去]を選び、Ⓞボタンを押す。

② △▽◁▷で画像を選び、Ⓞボタンを押して✓マークをつける。

- ズームレバーをT側に回すと、画面が1コマ表示に切り替わります。インデックスビューに戻るにはW側に回します。

③ 手順②を繰り返して消去する画像を選び、最後に**MENU**ボタンを押す。

④ △▽で[消去]を選び、Ⓞボタンを押す。

- ✓マークをつけた画像が消去されます。

[全コマ消去]するには

① △▽で[全コマ消去]を選び、Ⓞボタンを押す。

② △▽で[消去]を選択し、Ⓞボタンを押す。

画像を消去できないようにする [プロテクト]

▶（再生メニュー）▶ プロテクト

プロテクトされた画像は[1コマ消去]（p. 29、59）、[選択消去][全コマ消去]（p. 59）では消去できませんが、[内蔵メモリ初期化] / [カード初期化]（p. 61）を行うと消去されます。

① ◁▷で画像を選ぶ。
② ㊋ボタンを押す。
- 再度㊋ボタンを押すと、設定が解除されます。

③ 必要に応じて手順①、②を繰り返してプロテクトする設定を続け、最後に**MENU**ボタンを押す。

画像を回転させる[回転]

▶（再生メニュー）▶ 回転

① ◁▷で画像を選ぶ。
② ㊋ボタンを押して画像を回転させる。
③ 必要に応じて手順①、②を繰り返して他の画像にも続けて設定を行い、最後に**MENU**ボタンを押す。

[回転]の設定は電源を切った後も保持されます。

カメラの設定に関連するメニュー

お気に入りの設定を登録する [カスタムモード登録]

(セットアップメニュー) ▶ カスタムモード登録

サブメニュー 2	用途
登録	現在の設定を登録する。
クリア[*1]	登録した設定を消去する。

[*1] 設定は**P**モードに戻ります。

データを完全に消去する [内蔵メモリ初期化] / [カード初期化]

(セットアップメニュー)
▶ 内蔵メモリ初期化/カード初期化

- 初期化の前には、大切なデータが記録されていないことを確認してください。
- 新しく購入したカード、他のカメラで使用したカード、パソコンなどで他の用途で使用したカードは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。

サブメニュー 2	用途
する	内蔵メモリ[*1]またはカードの画像データ(プロテクトをかけた画像を含む)を完全に消去する。
しない	初期化をキャンセルする。

[*1] 内蔵メモリを初期化するときは、カードを取り出しておいてください。

内蔵メモリからカードへ画像をコピーする[データコピー]

(セットアップメニュー) ▶ データコピー

サブメニュー 2	用途
する	内蔵メモリの画像データをカードにコピーする。
しない	コピーをキャンセルする。

- データコピーは時間がかかります。データコピーの際には十分に残量がある電池をお使いください。

カメラと他の機器の接続方法を選ぶ [USB接続モード]

(セットアップメニュー) ▶ USB接続モード

サブメニュー 2	用途
オート	カメラを他の機器と接続するたびに、設定方法の選択画面が表示される。
ストレージ	カメラとパソコンをストレージで接続するときに選ぶ。
MTP	Windows VistaおよびWindows 7で付属のPC用ソフトウェアを使わずに、画像を転送するときに設定する。
プリント	PictBridge対応プリンタと接続するときに設定する。

動作環境

Windows	Windows XP（SP1 以上）/ Windows Vista / Windows 7
Macintosh	Mac OS X v10.3以降

USBポートのあるパソコンでも、以下の環境では正常な動作は保証されません。

- 拡張カードなどでUSBポートを増設したパソコン
- 工場出荷時にOSがインストールされていないパソコン、および自作パソコン

▶ボタンで電源を入れる [再生ボタン起動]

(セットアップメニュー) ▶ 再生ボタン起動

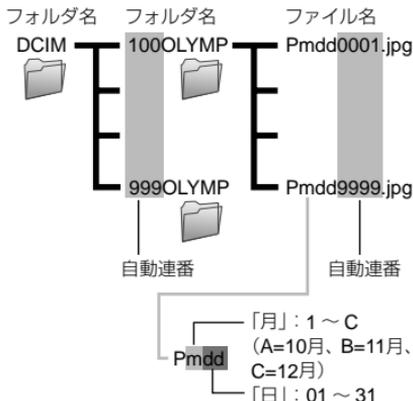
サブメニュー 2	用途
起動する	▶ボタンを押すと電源が入り、再生モードで起動する。
起動しない	電源は入りません。電源を入れるときは**ON/OFF**ボタンを押してください。

カメラの電子音を選ぶ・音量を調節する [音設定]

(セットアップメニュー) ▶ 音設定

サブメニュー 2	サブメニュー 3	用途
操作音種類	1/2/3	(シャッターボタンを除く)ボタンの操作音を選ぶ。
操作音量	Off（無音）または5段階の音量	(シャッターボタンを除く)ボタンの操作音量を調整する。
再生音量	Off（無音）または5段階の音量	画像を再生するときの音量を選ぶ。

画像ファイル名の連番をリセットする [ファイル名メモリー]

(セットアップメニュー) ▶ ファイル名メモリー

サブメニュー 2	用途
リセット	カードを入れ替えたとき、フォルダ名とファイル名の連番をリセットする[*1]（カード別に画像を管理するときに便利です）。
オート	カードを入れ替えても、フォルダ名とファイル名の連番を前のカードから継続する（すべての画像のフォルダ名とファイル名を通し番号で管理するのに便利です）。

*1 フォルダ名の連番は「100」、ファイル名の連番は「0001」に戻ります。

CCDと画像処理機能を調整する [ピクセルマッピング]

(セットアップメニュー) ▶ ピクセルマッピング

- この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。調整は、年に一度を目安として行ってください。
- 最適な効果を得るため、撮影・再生直後より約1分以上時間を置いて実行してください。処理中にカメラの電源を切ってしまったときは、必ずもう一度実行してください。

CCDと画像処理機能を調整するには

[スタート]（サブメニュー 2）表示中にⓄⓀボタンを押す。

- カメラがCCDと画像処理機能のチェックと調整を同時に行います。

モニタの明るさを調整する [モニタ調整]

(セットアップメニュー) ▶ モニタ調整

モニタの明るさを調整するには

① 画面を見ながら△▽で明るさを調整し、ⓄⓀボタンを押す。

テレビで画像を再生する[テレビ出力]

(セットアップメニュー) ▶ テレビ出力

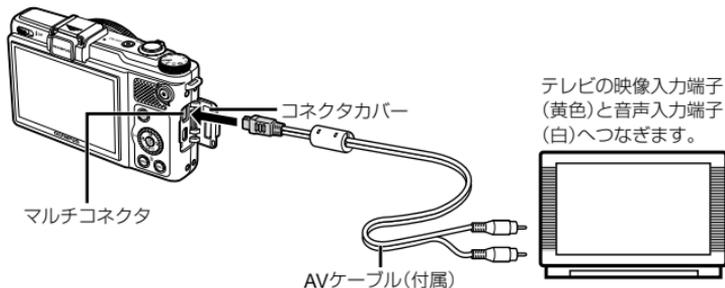
国と地域により、テレビの映像信号方式は異なります。テレビでカメラの画像を再生する前に、接続するテレビの映像信号方式と同じ方式を選びます。

サブメニュー2	サブメニュー3	用途
ビデオ出力	NTSC	日本、北米、台湾、韓国などでカメラをテレビに接続して再生する。
	PAL	ヨーロッパ諸国、中国などでカメラをテレビに接続して再生する。
HDMI出力	480p/576p / 720p優先 / 1080i優先	再生形式を設定する。
HDMI コントロール	Off	カメラで操作する。
	On	テレビのリモコンで操作する。

カメラの画像をテレビで再生するには

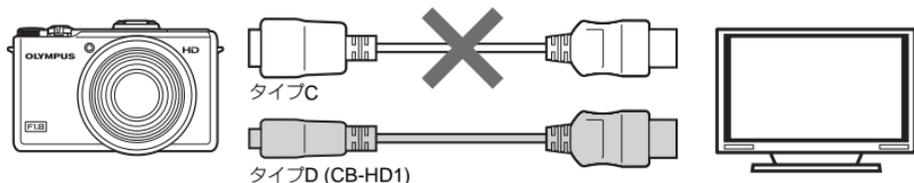
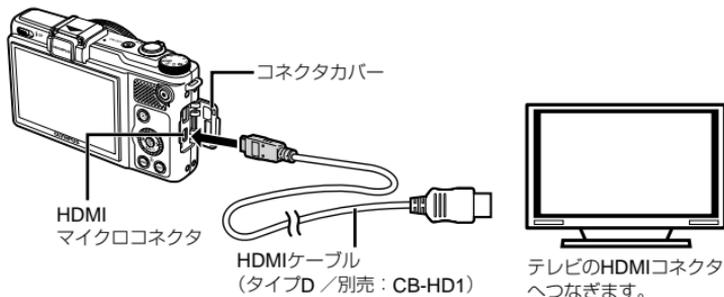
AVケーブルで接続する場合

① カメラで、接続するテレビの映像信号方式と同じ方式を選ぶ([NTSC] / [PAL])。

② テレビとカメラを接続する。

HDMIケーブルで接続する場合

① カメラで接続するときのデジタル信号形式を選ぶ([480p/576p] / [720p優先] / [1080i優先])。

② テレビとカメラを接続する。

- [1080i優先]に設定すると、1080i形式を優先してHDMI出力されますが、テレビ側の入力設定が適合しない場合は、信号形式が720p、480p、576pの順で変更されます。テレビの入力設定については、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- USBケーブルでカメラをパソコンなどと接続している際は、HDMIケーブルをカメラに接続しないでください。

③ テレビの電源を入れて「入力」を「HDMI(カメラを接続した入力端子)」に切り替える。

- テレビの入力切り替えについては、テレビの取扱説明書をご覧ください。

④ カメラの電源を入れて、△▽◁▷で再生する画像を選ぶ。

- カメラ側はHDMIマイクロコネクタ、テレビ側はテレビのHDMIコネクタに合ったHDMIケーブル:CB-HD1をご使用ください。

- AVケーブルとHDMIケーブルの両方がカメラとテレビに接続されている場合は、HDMIが優先されます。
- テレビの設定によっては、画像や情報表示の一部が欠けて見えることがあります。

画像をテレビのリモコンで操作するには

① [HDMIコントロール]を[On]に設定して、カメラの電源をOFFにする。
② カメラとテレビをHDMIケーブルで接続する。「HDMIケーブルで接続する場合」(p. 65)
③ テレビの電源を入れてから、カメラの電源を入れる。
- テレビに表示される操作ガイドにしたがって操作してください。

- お使いのテレビによっては、操作ガイドが表示されてもテレビのリモコンでは操作できない場合があります。
- テレビのリモコンで操作できない場合には、[HDMIコントロール]を[Off]にして、カメラで操作をしてください。

撮影の合間に電池の消費を抑える[スリープ時間]

(セットアップメニュー) ▶ スリープ時間

サブメニュー 2	用途
20秒/1分/3分/5分	カメラを操作しないとき、モニタを自動的に消すなどして電池の消費を抑える(スリープモード)。スリープモードになるまでの時間を選んで設定します。

- スリープモードでさらに約12分放置すると、電源が切れます。

スリープモードを解除するには

いずれかのボタンを操作します。

表示言語を切り替える[]

(セットアップメニュー) ▶

サブメニュー 2	用途
言語	モニタに表示されるメニューやエラーメッセージの言語を選ぶ。

① △▽◁▷で言語を選び、ボタンを押す。

日付・時刻を設定する[日時設定]

(セットアップメニュー) ▶ 日時設定

- 「日時・地域・表示言語を設定する」(p.22)

日付の表示順序を選ぶには

① 「分」の設定後に▷を押し、△▽で日付の表示順序を選ぶ。

② ボタンを押して、設定を終了する。

自宅と訪問先を設定して日時表示を切り替える[ワールドタイム]

（セットアップメニュー） ▶ ワールドタイム

[日時設定]を設定していないと、[ワールドタイム]は設定できません。

サブメニュー 2	サブメニュー 3	用途
自宅/訪問先	自宅	サブメニュー 2の（自宅）に設定した地域の日時を表示する。
	訪問先	サブメニュー 2の（訪問先）に設定した地域の日時を表示する。
自宅 *1	—	（自宅）に設定する地域を選ぶ。
訪問先 *1, 2	—	（訪問先）に設定する地域を選ぶ。

*1 サマータイムを実施している地域の場合、△▽で[サマータイム]の設定ができます。
*2 地域を選択すると、カメラが自動的に（自宅）との時差を計算し、（訪問先）の日時を設定します。

プリントする

ダイレクトプリント（PictBridge[*1]）

PictBridge対応プリンタにカメラを接続して、撮影した画像を直接プリントすることができます。
お使いのプリンタがPictBridgeに対応しているかどうかは、プリンタの取扱説明書でご確認ください。

[*1] PictBridgeとは、異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

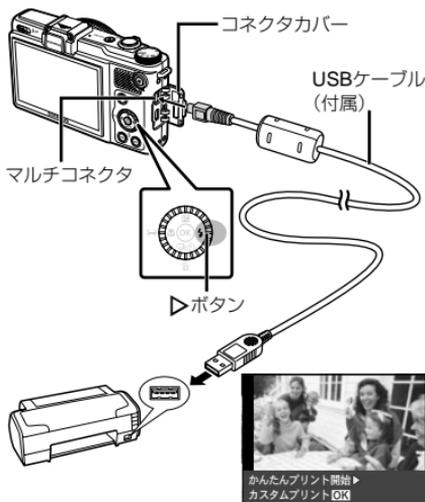
- このカメラで設定できるプリントモード、用紙サイズなどの設定項目は、お使いのプリンタによって異なります。プリンタの取扱説明書でご確認ください。
- プリントできる用紙の種類、用紙やインクカセットの取り付け方は、お使いのプリンタの取扱説明書でご確認ください。

プリンタの標準設定で画像をプリントする[かんたんプリント]

- [セットアップメニュー]の[USB接続モード]（p. 62）を[プリント]に設定してください。

1 プリントする画像をモニタに表示する。

- 「撮った画像を再生する」（p. 27）

2 プリンタの電源を入れてから、プリンタとカメラを接続する。

3 ▷を押してプリントをはじめる。

4 続けてプリントするときは、◁▷で画像を選び、Ⓞボタンを押す。

プリントを終了するには

画像選択の画面が表示された状態でカメラとプリンタからUSBケーブルを抜きます。

プリンタの設定を変えてプリントする［カスタムプリント］

1 ［かんたんプリント］（p. 68）の手順1、2を行い、Ⓐボタンを押す。

2 △▽でプリントモードを選び、Ⓐボタンを押す。

サブメニュー 2	用途
プリント	手順5で選択する画像をプリントする。
全コマプリント	内蔵メモリ/カード内の全画像をプリントする。
マルチプリント	1枚の用紙に同じ画像を複数レイアウトしてプリントする。
全コマインデックス	内蔵メモリ/カード内の全画像をインデックス（一覧）形式でプリントする。
予約プリント[*1]	プリント予約の内容にしたがってプリントする。

[*1] プリント予約された画像がないときは、［予約プリント］は選択できません。「プリント予約（DPOF）」（p. 72）

3 △▽で［サイズ］（サブメニュー 3）を選び、▷を押す。

［プリント用紙設定］画面が表示されないときは、［サイズ］と［フチ］/［分割数］はプリンタに固有の標準設定でプリントされます。

4 △▽で[フチ] / [分割数]の設定を選び、㊧ボタンを押す。

サブメニュー4（フチ/分割数）	用途
有り/無し[*1]	用紙の周辺に余白をつけてプリントする(有り)。 用紙いっぱいにプリントする(無し)。
(分割数はプリンタにより異なる)	手順2で[マルチプリント]を選んだときのみ、分割数を選ぶ。

*1 選択できる[フチ]の設定はプリンタによって異なります。

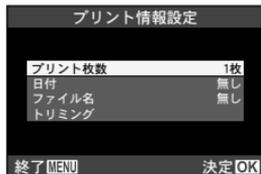
手順3、4で[凸標準設定]を選択すると、プリンタに固有の標準設定でプリントされます。

5 ◁▷で画像を選ぶ。

6 表示している画像をプリント予約するときは、△を押す。

表示している画像の詳細設定を行うときは、▽を押す。

詳細な設定を行うには

① △▽◁▷で設定を行い、㊧ボタンを押す。

サブメニュー5	サブメニュー6	用途
プリント枚数	0～10	プリントする画像の枚数を選ぶ。
日付	有り/無し	画像に日付をプリントする(有り)。 画像に日付をプリントしない(無し)。
ファイル名	有り/無し	画像にファイル名をプリントする(有り)。 画像にファイル名をプリントしない(無し)。
トリミング	(設定画面に進む)	画像の一部を選んでプリントする。

画像の一部を切り出すには[トリミング]

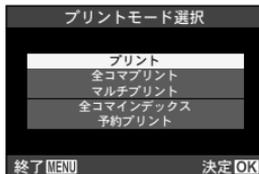
① ズームレバーでトリミング枠の大きさを選び、△▽◁▷で枠を移動した後、Ⓞボタンを押す。

② △▽で[決定]を選びⓄボタンを押す。

7 必要に応じ手順5、6を繰り返して、プリントする画像の選択、詳細設定、[1枚予約]をする。

8 Ⓞボタンを押す。

9 △▽で[プリント]を選び、Ⓞボタンを押す。

- 画像のプリントがはじまります。
- 全コマプリントモードの場合、[オプション設定]を選択すると、[プリント情報設定]画面が表示されます。
- プリントが終了すると、[プリントモード選択]画面が表示されます。

プリントを中止するには

① [USBケーブルを抜かないでください]の表示中に**MENU**ボタンを押し、△▽で[中止]を選び、Ⓞボタンを押します。

10 **MENU**ボタンを押す。

11 [USBケーブルを抜いてください]が表示されてから、カメラとプリンタからUSBケーブルを抜く。

プリント予約(DPOF[*1])

プリント予約とは、カード内の画像にプリントする枚数や日付を印刷する指定を記憶させることです。パソコンやカメラがなくても、プリント予約したカードだけで、DPOF対応のプリンタやDPOF対応のプリントショップで簡単にプリントすることができます。

[*1] DPOFとは、デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するための規格です。

- プリント予約は、カードに記録された画像にのみ設定することができます。あらかじめ画像が記録されているカードをカメラに入れてからプリント予約をしてください。
- 他のDPOF機器で設定したDPOF予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。また、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、他の機器で予約した内容は消去されます。
- DPOF予約で予約できる枚数は、1枚のカードにつき999画像です。

1コマずつプリント予約する[1コマ予約]

1 セットアップメニューを表示する。

- 「メニューで操作する」(p. 6)

2 ▶(再生メニュー)の[プリント予約]を選び、Ⓞボタンを押す。

3 △▽で[1コマ予約]を選び、Ⓞボタンを押す。

4 ◁▷で予約する画像を、△▽で予約する枚数を選び、㊉ボタンを押す。

5 △▽で[日時プリント]画面での設定を選び、㊉ボタンを押す。

サブメニュー 2	用途
無し	画像のみをプリントする。
日付	画像と撮影年月日をプリントする。
時刻	画像と撮影時刻をプリントする。

6 △▽で[予約する]を選び、㊉ボタンを押す。

カード内の画像を全て1枚ずつプリント予約する[全コマ予約]

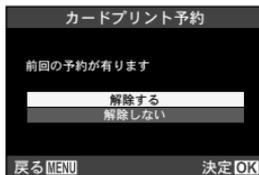
1 [1コマ予約]（p. 72）の手順1、2を行う。

2 △▽で[全コマ予約]を選び、㊉ボタンを押す。

3 [1コマ予約]の手順5、6を行う。

すべてのプリント予約を解除する

1 [1コマ予約]（p. 72）の手順1、2を行う。

2 △▽で[1コマ予約]、[全コマ予約]のいずれかを選び、㊉ボタンを押す。

3 △▽で[解除する]を選び、㊉ボタンを押す。

1コマずつプリント予約を解除する

1 ［1コマ予約］（p. 72）の手順1、2を行う。

2 △▽で[1コマ予約]を選び、ⓞⓚボタンを押す。

3 △▽で[解除しない]を選び、ⓞⓚボタンを押す。

4 ◁▷で予約を解除する画像を選び、△▽で予約する枚数を「0」にする。

5 必要に応じて手順4を繰り返し、最後にⓞⓚボタンを押す。

6 △▽で[日時プリント]画面での設定を選び、ⓞⓚボタンを押す。

- プリント予約の設定が残っている画像に、選択した設定が適用されます。

7 △▽で[予約する]を選び、ⓞⓚボタンを押す。

使い方のヒント

思い通りに操作できない、画面にメッセージが表示されるがどうして良いかわからないときは、以下を参考にしてください。

故障かな？と思ったら

電池

「電池を入れてもカメラが動かない」

- 充電された電池を正しい向きで入れる。
  「電池とSD/SDHC/SDXCメモリーカード(市販)を入れる」（p.17)、「電池の充電と付属のCD-ROMからのセットアップを行う」（p.18)、「付属のUSB-ACアダプタで充電する」（p.21）
- 寒さのため一時的に電池の性能が低下していることがあります。カメラから電池を一度取り出し、ポケットに入れるなどして少し温めます。

カード・内蔵メモリ

「メッセージが表示される」

「エラーメッセージ」（p. 76）

シャッターボタン

「撮影できない」

- スリープモードを解除する。
  カメラは電源オンの状態で、何も操作しないと設定した時間にスリープモードと呼ばれる省電力状態に入り、モニタは自動的に消灯します。この状態でシャッターボタンを全押ししても撮影できません。ズームレバーやその他のボタンを操作して、カメラをスリープモードから復帰させてから撮影しましょう。しばらく何も操作しない状態が続くと、カメラは電源オフの状態になります。**ON/OFF**ボタンを押して電源を入れてください。
- ▶ボタンを押して、撮影モードに切り替える。
- ϟ（フラッシュ充電)アイコンの点滅が消えるのを待って撮影する。

モニタ

「見にくい」

- 結露[*1]が起こっている可能性があるので、電源を切り、カメラ全体がまわりの温度になじんで乾燥するのを待ってから撮影する。
  [*1] 寒いところから急に暖かく湿った部屋などに入れたときに露ができること。

「画面に縦スジが入る」

- 晴天下など非常に明るい被写体にカメラを向けると、画面に縦スジが入る場合があります。撮影した静止画にはスジは写りません。

「撮影した画像に光が写っている」

- 夜間にフラッシュを発光させて撮影すると、空気中のほこりなどに光が反射して、画像に写りこむことがあります。

日時機能

「設定した日時が元に戻った」

- 電池を抜いた状態で約1日間[*2]放置すると、日時の設定は初期設定に戻ります。設定し直してください。
  [*2] 初期設定に戻るまでの時間は、電池を入れ替えてからの時間によって異なります。
  「日時・地域・表示言語を設定する」（p. 22）

その他

「撮影時にカメラ内部から音がする」

- 撮影可能状態ではオートフォーカス動作を行っているため、カメラを操作しなくてもレンズを動かしている音がすることがあります。

エラーメッセージ

モニタに以下のメッセージが表示されたときは、以下の内容を確認してください。

エラーメッセージ	問題を解決するには
このカードは使用できません	**カードの問題** 新しいカードを入れます。
書き込み禁止になっています	**カードの問題** カードの書き込み禁止スイッチが「LOCK」になっています。スイッチを戻して解除してください。
撮影可能枚数が0です	**内蔵メモリの問題** • カードを入れます。 • 不要な画像を消去します。[*1]
内蔵メモリに残量がありません	（同上）
撮影可能枚数が0です	**カードの問題** • カードを交換します。 • 不要な画像を消去します。[*1]
カード残量がありません	（同上）
カードセットアップ 電源オフ カード初期化 決定OK	**カードの問題** △▽で[カード初期化]を選び、Ⓐボタンを押します。続けて△▽で[する]を選び、Ⓐボタンを押します。[*2]
メモリセットアップ 電源オフ 内蔵メモリ初期化 決定OK	**内蔵メモリの問題** △▽で[内蔵メモリ初期化]を選び、Ⓐボタンを押します。続けて△▽で[する]を選び、Ⓐボタンを押します。[*2]
画像が記録されていません	**内蔵メモリ/カードの問題** 撮影してから再生します。
この画像は再生できません	**選んだ画像の問題** 画像ソフトなどを使いパソコンで再生します。それでも再生できないときは、画像ファイルの一部が壊れています。
この画像は編集できません	**選んだ画像の問題** 画像ソフトなどを使いパソコンで編集します。

エラーメッセージ	問題を解決するには
電池残量がありません	**電池の問題** 電池を充電します。
接続されていません	**接続の問題** カメラとパソコンまたはプリンタを正しく接続します。
用紙がありません	**プリンタの問題** プリンタに用紙を補充します。
インクがありません	**プリンタの問題** プリンタにインクを補充します。
紙づまりです	**プリンタの問題** 紙づまりを解消します。
プリンタの設定が変更されました[*3]	**プリンタの問題** プリンタを使用できる状態に戻します。
プリンタエラーです	**プリンタの問題** カメラとプリンタの電源を切り、プリンタの状態を確認してからもう一度電源を入れ直します。
この画像はプリントできません[*4]	**選んだ画像の問題** パソコンなどを使いプリントします。

[*1] 大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。

[*2] データはすべて消去されます。

[*3] プリンタ側で用紙カセットを取り出すなどの操作をすると表示されます。プリントの設定中は、プリンタの操作をしないでください。

[*4] 他のカメラで撮影した画像などでは、プリントできないものがあります。

撮影のヒント

イメージした通りに写真を撮るための撮影方法がわからないときは、以下を参考にしてください。

ピント

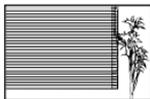
「狙ったものにピントを合わせたい」

- **画面の中心以外にある被写体を撮る**
  被写体と同じ距離にあるものにピントを合わせたあと、構図を決めて撮影します。
  半押し(p. 25)
- **顔優先機能(p. 48)を使って撮る**
- **[追尾AF]（p. 40)で撮る**
  動いている被写体に自動でピントを合わせ続けて撮れます。
- **ピントの位置を移動して撮る**
  「ピントの位置を自分で決める」（p. 41）

- **オートフォーカスが苦手な被写体を撮る**
  以下のときは、被写体と同じ距離にあるコントラストのはっきりとしたものにピントを合わせたあと(シャッターボタン半押し)、構図を決めて撮影します。

コントラストがはっきりしない被写体

画面中央に極端に明るいものがあるとき

縦線のない被写体[*1]

[*1] カメラを縦位置に構えてピントを合わせてから、横位置に戻して撮影するのも効果的です。

遠い被写体と近いものが混在するとき

動きの速い被写体

ピントを合わせたいものが中央にない

手ぶれ

「ぶれない写真を撮りたい」

- **[手ぶれ補正]（p. 53)で撮る**
- **[シーンモード]の 🏃（スポーツ）(p. 35)で撮る**
  🏃（スポーツ)を選ぶと、速いシャッタースピードで撮影できるので、被写体ぶれにも有効です。
- **高いISO感度で撮る**
  高いISO感度を選ぶと、フラッシュを使えない場所でも速いシャッタースピードで撮影できます。
  「撮影感度を選ぶ(ISO感度)」(p. 43)

露出(明るさ)

「イメージ通りの明るさで撮りたい」

- **[強制発光]（p. 41)フラッシュで撮る**
  逆光でも被写体が暗くならずに撮れます。
- **露出補正(p. 42)して撮る**
  画面を確認しながら明るさを調節して写します。通常、白い被写体(雪など)を撮影すると実際より暗く写ってしまいますが、プラスに補正すると見たままの白を表現することができます。黒い被写体を撮影するときは、逆にマイナスに補正すると効果的です。

色合い

「見た目と同じ色で撮りたい」

- **ホワイトバランス(p. 44, 50)を選んで撮る**
  通常は[WBオート]でほとんどの環境をカバーしますが、被写体の条件によっては設定を変えて試してみるほうが良いことがあります。(晴天下の日陰や、自然光と照明光が混ざってあたるとき、など)

画質

「きめ細かい写真を撮りたい」

- **光学ズームで撮る**
  デジタルズーム (p. 26, 53)を使わないで撮影します。
- **低いISO感度で撮る**
  ISO感度を高くすると、ノイズ(本来そこにはないはずの色の小さな点や色むら)が発生し、画像が粗く見えます。また低いときよりは粗くなります。
  「撮影感度を選ぶ(ISO感度)」(p. 43)

電池

「電池を長持ちさせたい」

- **以下の操作は実際に撮影しなくても、電池を消耗するので、なるべく避ける**
  - シャッターボタンの半押しを繰り返す。
  - ズーム操作を繰り返す。
- **スリープ時間を調整する**
  [スリープ時間] (p. 66)

再生・編集のヒント

再生

「内蔵メモリ、またはカード内の画像を再生したい」

- **内蔵メモリ内の画像を再生するときは、カードを抜く**
  「SD/SDHC/SDXCメモリーカードを取り出すには」(p. 18)

アフターサービス

- 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
- 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。
- 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社で保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにお問い合わせください。
- 海外で故障・不具合が生じた場合は、オリンパス代理店リストに記載のⓦマークが付いた販売店・サービスステーションまでご依頼ください。
- 本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等)については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。
- 修理品をご送付の場合は、修理箇所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

お手入れ

カメラの外側

- 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、固く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を固く絞って拭き取ります。

モニタ

- 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ

- レンズブロワー(市販)でほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

電池/USB-ACアダプタ

- 乾いた柔らかい布で拭きます。

 ! 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。

 ! レンズを汚れたままにしておくと、カビが生えることがあります。

カメラの保管

- カメラを長期間使用しないときは、電池やカードを取り外してから風通しがよく涼しい乾燥した場所に保管してください。
- 保管期間中でも、ときどき電池を入れてカメラの動作を確かめてください。

  薬品を扱うような場所での保管は腐食などの原因になるため避けてください。

電池/USB-ACアダプタについて

- 電池は、当社製リチウムイオン電池（LI-50B）1個を使用します。それ以外の電池は使用できません。

注意：
指定以外の電池を使用した場合、爆発（または破裂）の危険があります。使用済み電池は取扱説明書（p.91）に従って廃棄してください。

- カメラの消費電力は、使用条件などにより大きく異なります。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を多く消費するため、電池の消費が早くなります。
  - ズーム動作を繰り返す。
  - 撮影モードでシャッターボタンを半押しして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  - 長時間、モニタで画像を表示する。
  - パソコンやプリンタとの接続時。
- 消耗した電池をお使いのときは、電池残量警告が表示されずにカメラの電源が切れることがあります。
- ご購入の際、充電池は十分に充電されていません。ご使用の前に付属のUSB-ACアダプタF-2AC（以降USB-ACアダプタと呼びます）で充電を行ってください。
- 付属のUSB-ACアダプタを使用したときの充電池の充電時間は通常約3時間（目安）です（使用状況により異なります）。
- 付属のUSB-ACアダプタは充電及び再生用です。USB-ACアダプタをカメラに接続しているときは、撮影できません。
- 付属のUSB-ACアダプタはこのカメラ専用です。付属のUSB-ACアダプタを他のカメラに接続して電池を充電することはできません。
  他の機器類に接続してご使用しないでください。
- プラグインタイプのUSB-ACアダプタについて：付属のUSB-ACアダプタは垂直、または床に水平に正しく据え付けてください。

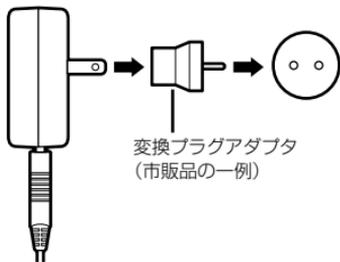
パソコンに接続して電池を充電する

カメラとパソコンを接続して、電池を充電することができます。

別売のUSB-ACアダプタを使う

時間がかかる作業を行う場合には、USB-ACアダプタF-3AC（別売）の使用をおすすめします。また、USB-ACアダプタ付属の電源コードはUSB-ACアダプタ専用です。他の製品に使用しないでください。

海外での使用について

- 充電器とUSB-ACアダプタは、世界中のほとんどの家庭用電源AC100 ～ 240V（50/60Hz）でご使用になれます。ただし、国や地域によっては、電源コンセントの形状が異なるため、変換プラグアダプタ（市販）が必要になる場合があります。

詳しくは、電気店や旅行代理店でご確認ください。

- 市販の海外旅行用電子変圧器（トラベルコンバーター）は、充電器とUSB-ACアダプタが故障することがありますので使用しないでください。

SD/SDHC/SDXCメモリーカード（カード）を使う

カード（および内蔵メモリ）は、撮影画像を記録するためのフィルムにあたるものです。記録された画像（データ）は、削除やパソコンでの加工を自由にできます。内蔵メモリはカメラから取り出したり、交換することができませんが、カードはカメラから取り出したり、交換することができます。また容量の大きなカードを使用すると、記録できる枚数を増やすことができます。

SD/SDHC/SDXCメモリーカードの書き込み禁止スイッチ

SD/SDHC/SDXCメモリーカード本体は書き込み禁止スイッチを備えています。スイッチを「LOCK」側にしておくと、カードへの書き込みやデータの削除、初期化ができなくなります。スイッチを戻すと書き込み可能になります。

このカメラで使用できるカード

SD/SDHC/SDXCメモリーカード
（動作確認済みカードは当社ホームページをご確認ください。）

新しいカードを使うときには

新しく購入したカード、他のカメラで使用したカード、パソコンなどで他の用途で使用したカードは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。
[内蔵メモリ初期化] / [カード初期化](p. 61)

画像の保存先を確認する

内蔵メモリまたはカードのどちらを使用して撮影・再生しているか、モニタで確認できます。

使用メモリ表示

IN：内蔵メモリ使用
SD：カード使用

撮影モード
再生モード

[内蔵メモリ初期化] / [カード初期化]や[1コマ消去]、[選択消去]、[全コマ消去]を行っても、カード内のデータは完全には消去されません。廃棄する際は、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

カードの読み出し/書き込み動作

撮影時のみ、データの書き込み中にメディアアクセスアイコンが赤く点滅します。データの書き込み中は絶対に電池/カードカバーを開けたり、USBケーブルを抜いたりしないでください。撮影した画像が破壊されるだけでなく、内蔵メモリまたはカードが使用できなくなることがあります。

内蔵メモリとSD/SDHC/SDXCメモリーカードの撮影可能枚数(静止画)/連続撮影可能時間(ムービー)

撮影可能枚数および連続撮影可能時間は目安です。実際の撮影可能枚数および連続撮影可能時間は、撮影条件や使用するカードによって異なります。

静止画

画像サイズ	撮影可能枚数	
	内蔵メモリ	SD/SDHC/SDXCメモリーカード（1GBの場合）
RAW	4枚	70枚
LF	9枚	173枚
LN	17枚	305枚
MN	44枚	776枚
SN	162枚	2,753枚
LF+RAW	2枚	42枚
LN+RAW	2枚	47枚
MN+RAW	3枚	52枚
SN+RAW	3枚	54枚

ムービー

ムービーサイズ	連続撮影可能時間			
	内蔵メモリ		SD/SDHC/SDXCメモリーカード（1GBの場合）	
	音声あり	音声なし	音声あり	音声なし
ハイビジョン 1280×720	11秒	12秒	3分26秒	3分34秒
スタンダード 640×480	22秒	24秒	6分37秒	7分7秒

カードの容量に関わらず、一度に記録できるムービーの最大ファイルサイズは、2GBまでになります。

撮影枚数を増やすには

不要な画像を消去するか、カメラをパソコンなどに接続して画像を保存してから、内蔵メモリ/カードの画像を消去します。[1コマ消去]（p. 29、59）、[選択消去]（p. 59）、[全コマ消去]（p. 59）、[内蔵メモリ初期化] / [カード初期化]（p. 61）

電子ビューファインダー（別売）を使う

電子ビューファインダー（別売:VF-2）を使用すると、撮影画面をファインダーで見ることができます。日中などとても明るい場所でモニタが見にくいときや、ローアングルで使用するときに便利です。電子ビューファインダーはカメラのホットシューとアクセサリーポートに取り付けて使用します。

専用フラッシュ（別売）を使う

このカメラでは、別売の専用フラッシュを使用して目的に応じたいろいろなフラッシュ撮影が行えます。カメラとの通信機能があり、TTL-AUTOなど多彩な調光モードで、このカメラのフラッシュモードを使うことができます。当社専用フラッシュは、カメラのホットシューに取り付けて使用します。また、ブラケットケーブル（別売）を使用して専用のフラッシュブラケットに取り付けることもできます。専用フラッシュの取扱説明書も合わせてご覧ください。

専用フラッシュの機能比較

専用フラッシュ	FL-36R	FL-20	FL-14
調光モード	TTL-AUTO, MANUAL		
GN（ガイドナンバー）（ISO100時）	GN36（85mm[*1]時） GN20（24mm[*1]時）	GN20（35mm[*1]時）	GN14（28mm[*1]時）
RCモード	○	×	×

[*1] カバーできるレンズ焦点距離（35 mmフィルムカメラ換算）

専用フラッシュを装着した場合は内蔵フラッシュは使用できません。

ワイヤレスRCフラッシュ撮影

RCモード機能付き専用フラッシュではワイヤレスフラッシュ撮影ができます。内蔵フラッシュで、最大3グループまでのフラッシュを別々に発光制御できます。詳しくは専用フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

市販のフラッシュについて

専用フラッシュ以外の市販のフラッシュをカメラのホットシューに接続して使用する場合は、次のことにご注意ください。

- カメラのホットシューのX端子に、24V以上の電圧がかかる古いタイプの市販フラッシュを接続すると故障します。
- 弊社規格外の通信端子のあるフラッシュを接続すると故障する可能性があります。
- 撮影モードを**M**にして、ISO感度を[ISOオート]以外でお使いください。

- フラッシュで調光する場合は、フラッシュにカメラのISO感度と絞り値を設定する必要があります。フラッシュによる明るさを調整するには、いずれかをシフトします。
- レンズにあった照射角のフラッシュをお使いください。通常、照射角は35mmフィルムカメラ換算の焦点距離で表します。

コンバージョンレンズ（別売）

コンバージョンレンズ	コンバージョンレンズアダプタ
TCON-17	CLA-12

ステレオマイクセット（SEMA–1）（別売）

カメラのマイクによる録音より高音質な録音ができます。マイクをカメラから独立させることで周囲の騒音や風きり音の対策がしやすくなります。用途に合わせて市販のマイクを使うこともできます（φ3.5ステレオミニプラグインパワー対応）。ステレオマイクセットはホットシューとアクセサリーポートに取り付けて使用します。

! マイクをマイクアダプターに直接取り付けた状態で、カメラの内蔵フラッシュを使用すると、マイクでフラッシュの光がケラレてしまいます。そのような場合は、同梱の延長ケーブルをお使いください。

リモートケーブル（RM-UC1）（別売）

マクロ撮影やバルブ撮影時などでシャッターボタン押下げによるカメラの振動を避けたいときに使います。カメラのマルチコネクタに接続して使用します。

防水プロテクター（PT-050）（別売）

防水プロテクターをカメラに装着すると、水中で撮影することができます。

! 「水中撮影するには」（p. 36）、「水中撮影でピント位置を固定するには（AFロック）」（p. 36）、［水中］（p. 44）

安全にお使いいただくために

ご使用の前に、この内容をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ **注意**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警告

- **可燃性ガス、爆発性ガス等が大気中に存在するおそれのある場所では使用しない**
  引火・爆発の原因となります。
- **フラッシュやLED（AFイルミネータ等)を人(特に乳幼児)に向けて至近距離で発光させない**
- **カメラで日光や強い光を見ない**
  視力障害をきたすおそれがあります。
- **幼児、子供の手の届く場所に放置しない**
  以下のような事故が発生するおそれがあります。
  - 誤ってストラップを首に巻きつけ､窒息を起こす。
  - 電池などの小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。
  - 目の前でフラッシュが発光し､視力障害を起こす。
  - カメラの動作部でけがをする。
- **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で長時間使用したり、保管しない**
  火災・感電の原因となります。
- **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない**
- **連続発光後、発光部分に手を触れない**
  やけどのおそれがあります。
- **分解や改造をしない**
  感電・けがをするおそれがあります。
- **内部に水や異物を入れない**
  火災・感電の原因となります。
  万一水に落としたり、内部に水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り電池を抜き、販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
- **通電中のUSB-ACアダプタ、充電中の電池に長時間触れない**
  充電中のUSB-ACアダプタや電池は、温度が高くなります。長時間皮膚が触れていると、低温やけどのおそれがあります。
- **専用の当社製リチウムイオン電池、充電器、USB-ACアダプタ以外は使用しない**
  発熱、変形などにより、火災・感電の原因となります。またカメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。専用品以外の使用により生じた傷害は補償しかねますので、ご了承ください。

- **SD/SDHC/SDXCメモリーカード以外は、絶対にカメラに入れない**
  その他のカードを誤って入れた場合は、無理に取り出さず、当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。

⚠ 注意

- **異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常を感じたときは使用を中止する**
  火災・やけどの原因となることがあります。
  やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにご連絡ください。
  (電池を取り外す際は、素手で電池を触らないでください。また可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。)
- **濡れた手でカメラを操作しない**
  故障・感電の原因となることがあります。また、USB-ACアダプタの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。
- **カメラをストラップで提げて持ち運んでいるときは、他のものに引っかからないように注意する**
  けがや事故の原因となることがあります。
- **高温になるところに放置しない**
  部品の劣化・火災の原因となることがあります。

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、以下の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 危険

- **火の中に投下したり、加熱しない**
  発火・破裂・火災の原因となります。
- **(+)(−)端子を金属類で接続しない**
- **電池と金属製のネックレスやヘアピンを一緒に持ち運んだり、保管しない**
  ショート、発熱し、やけど·けがの原因となります。
- **直射日光のあたる場所、炎天下の車内、ストーブのそばなど高温になる場所で使用・放置しない**
  液漏れ、発熱、破裂などにより、火災・やけど・けがの原因となります。
- **直接ハンダ付けしたり、変形・改造・分解をしない**
  端子部安全弁の破壊や、内容物の飛散が生じ危険です。
  火災・破裂・発火・液漏れ・発熱・破損の原因となります。
- **電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み口等に直接接続しない**
  火災・破裂・発火・液漏れ・発熱・破損の原因となります。
- **電池の液が目に入った場合は失明のおそれがあるので、こすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い流したあと、直ちに医師の診断を受けてください。**

⚠ 警告

- **水や海水などにつけたり、端子部を濡らさない**
- **濡れた手で触ったり持ったりしない**
  感電・故障の原因となります。
- **所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を中止する**
  火災・破裂・発火・発熱の原因となります。
- **外装にキズや破損のある電池は使用しない**
  破裂・発熱の原因となります。
- **電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしない**
  破裂・液漏れの原因となります。
- **カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしない**
- **液漏れ、変色、変形、その他異常が発生した場合は、使用を中止する**
  火災・感電の原因となります。
  販売店または当社サービスステーションにご相談ください。
- **電池の液が皮膚・衣類へ付着すると、皮膚に傷害を起こすおそれがあるので、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。**

⚠ 注意

- **電池を使ってカメラを長時間連続使用したあとは、すぐに電池を取り出さない**
  やけどの原因となることがあります。
- **長期間使用しない場合は、カメラから電池を外しておく**
  液漏れ・発熱により、火災・けがの原因となることがあります。

USB-AC**アダプタについてのご注意**

⚠ 危険

- **USB-ACアダプタを濡らしたり、濡れた状態または濡れた手で触ったり持ったりしない**
  故障・感電の原因となります。
- **USB-ACアダプタを布などで覆った状態で使用しない**
  熱がこもってケースが変形したり、火災・発火・発熱の原因となります。
- **USB-ACアダプタを分解・改造しない**
  感電・けがの原因となります。
- **USB-ACアダプタは指定の電源電圧で使用する**
  指定以外の電源電圧を使用すると、火災・破裂・発煙・発熱・感電・やけどの原因となります。

⚠ 警告

- **コンセントからの抜き差しは、必ずUSB-ACアダプタ本体を持つ**
  USB-ACアダプタ本体を持たないと、火災・感電の原因となることがあります。
  以下の場合はすぐに使用を中止し、販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
  - USB-ACアダプタが熱い、焦げ臭い、煙が出ている。
  - 電源プラグに接触不良がある。

⚠ 注意

- **お手入れの際は、USB-ACアダプタ本体をコンセントから抜いて行う**
  USB-ACアダプタ本体を抜かないで行うと、感電・けがの原因となることがあります。

使用上のご注意

使用条件について

- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で長時間使用したり放置すると、動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
  - 直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど、高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
  - 砂、ほこり、ちりの多い場所
  - 火気のある場所
  - 水に濡れやすい場所
  - 激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けたまま撮影または放置しないでください。CCDの退色・焼きつきを起こすことがあります。
- 寒い戸外から暖かい室内に入るなど急激に温度が変わったときは、カメラ内部で結露が発生する場合があります。ビニール袋などに入れてから室内に持ち込み、カメラを室内の温度になじませてからご使用ください。
- カメラを長期間使用しないと、カビがはえるなど故障の原因となることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- テレビ、電子レンジ、ゲーム機、スピーカー、大型モーター、電波塔や高圧線の近くでカメラを使用すると、磁気や電磁波、電波、高電圧の影響で、カメラが誤動作する場合があります。カメラが正常に動作しない場合は、電源を切ってから、再度電源を入れてください。
- カメラのそばにクレジットカードや磁気定期券、フロッピーディスクなどの磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。データが壊れて使用できなくなることがあります。
- 三脚に取り付ける際は、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。
- 本体の電気接点部には手を触れないでください。
- レンズに無理な力を加えないでください。

電池について

- 当社製リチウムイオン充電池は、当社デジタルカメラ専用です。他の機器に使用しないでください。
- 電池の(＋)(－)端子は、常にきれいにしておいてください。汗や油で汚れていると、接触不良を起こす原因となります。充電や使用する前に、乾いた布でよく拭いてください。
- 充電式電池をはじめてご使用になる場合、また長時間使用していなかった場合は、ご使用の前に必ず充電してください。
- 一般に電池は低温になるにしたがって一時的に性能が低下することがあります。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなど保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると性能が回復します。
- 撮影条件、使用環境および電池により、撮影枚数が減少することがあります。
- 長期間の旅行などには、予備の電池を用意されることをおすすめします。海外では地域によって電池の入手が困難な場合があります。

- 使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には、（+）（−）端子をテープなどで絶縁してから最寄の充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。詳しくは一般社団法人JBRCホームページ（http://www.jbrc.com）をご覧ください。

モニタについて

本製品は背面の表示に、有機ELモニタを使用しています。

- カメラを太陽などの強い光線に向けると、内部を破損するおそれがあります。
- モニタは有機ELのため、長時間同じ表示を続けているとモニタに焼き付きが発生し、部分的な明るさの低下や色ムラの原因となります。また、場合によっては焼き付きが戻らなくなることがあります。モニタの焼き付きは、記録する画像には影響はありません。
- モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の有機材料を口に入れないでください。有機材料が手足や衣類に付着した場合は、直ちにせっけんで洗い流してください。
- モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めのとき、モニタにギザギザが見えることがありますが、故障ではありません。記録される画像には影響ありません。
- **本製品のモニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

その他のご注意

- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止します。また、無断転載は固くお断りします。
- 本製品の不適当な使用による万一の損害、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、当社指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

接続ケーブル、USB-ACアダプタ(USB-ACアダプタ対応機種のみ)は、必ず、当製品指定のものをお使いください。
指定品以外では、VCCI協会の技術基準を超えることが考えられます。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップル社の商標または登録商標です。
SDHC/SDXCロゴは商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会(JEITA)で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

このカメラの内部のソフトウェアは第三者作成のソフトウェアを含んでいます。第三者作成のソフトウェアは、その所有者または著作権者により所定の条件が課せられており、その条件に基づいてあなたに配布されています。この条件の中であなたに告知するものがある場合には、カメラに同梱されたCD-ROMまたは以下のURLのウェブサイトに必要に応じて準備されたsoftware notice PDFファイル内に見出すことができます。
http://www.olympus.co.jp/en/support/imsg/digicamera/download/notice/notice.cfm

仕様

カメラ

項目		内容
形式	:	デジタルカメラ(記録・再生型)
記録方式		
静止画	:	デジタル記録、JPEG(DCF準拠)
対応規格	:	Exif 2.2、DPOF、PRINT Image Matching III 、PictBridge
静止画音声	:	Waveフォーマット準拠
動画	:	AVI Motion JPEGに準拠
記録媒体	:	内蔵メモリ/SDメモリーカード/SDHCメモリーカード/SDXCメモリーカード
カメラ部有効画素数	:	1000万画素
画像素子	:	1/1.6型CCD(原色フィルター)
レンズ	:	オリンパスレンズ6 ～ 24mm、F1.8 ～ 2.5 (35mmフィルム換算28 ～ 112mm相当)
NDフィルタ	:	3段相当
測光方式	:	撮像素子によるデジタルESP測光/中央重点測光/スポット測光
シャッター	:	60 ～ 1/2000秒、バルブ撮影
撮影範囲	:	0.6m ～∞(W)0.6m ～∞(T)(通常) 0.1m ～∞(W)0.3m ～∞(T)(マクロ時) 0.01m ～ 0.6m(スーパーマクロ時)
モニタ	:	3.0型(インチ)有機EL、610,000ドット
コネクタ	:	USB端子/AV出力端子(マルチコネクタ)、HDMIマイクロコネクタ(タイプD)、アクセサリポート
自動カレンダー機能	:	2000 ～ 2099年の範囲で自動修正
使用環境		
温度	:	0℃～ 40℃(動作時)/–20℃～ 60℃(保存時)
湿度	:	30%～ 90%(動作時)/10%～ 90%(保存時)
電源	:	専用リチウムイオン電池(当社製LI-50B)1個
大きさ	:	幅110.6mm×高さ64.8mm×厚さ42.3mm(突起部を除く)
質量	:	275g(電池/カード/キャップを含む)

リチウムイオン充電池LI-50B

形式	**:**	充電式リチウムイオン電池
公称電圧	**:**	DC3.7V
公称容量	**:**	925mAh
充放電回数	**:**	約300回(使用する条件により異なります。)
使用環境		
温度	**:**	0℃～40℃(充電時)/–10℃～60℃(動作時)/–20℃～35℃(保存時)

USB-ACアダプタF-2AC

Model No.	**:**	F-2AC-1A/F-2AC-2A/F-2AC-1B/F-2AC-2B
定格入力	**:**	AC100～240V(50/60Hz)
定格出力	**:**	DC5V、500mA
充電時間	**:**	約3時間
使用環境		
温度	**:**	0℃～40℃(動作時)/–20℃～60℃(保存時)

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing, LLCの商標または登録商標です。

OLYMPUS

オリンパス イメージング株式会社

〒163-0914　東京都新宿区西新宿２の３の１ 新宿モノリス

● ホームページによる情報提供について

製品仕様、パソコンとの接続、OS 対応の状況、Q&A 等の各種情報を当社ホームページで提供しております。

また、オンライン修理受付の詳細やインターネットでのお申し込み、修理に関するお問合せ先（修理センター、国内サービスステーションなど）、カスタマーサポートセンターの営業日・営業時間につきましても当社ホームページで最新情報をお知らせしております。

オリンパスホームページ **http://www.olympus.co.jp/** から「お客様サポート」のページをご参照ください。

● 製品に関するお問い合わせ先（カスタマーサポートセンター）

フリーダイヤル

0120-084215　携帯電話・**PHS** からは **042-642-7499**

FAX　042-642-7486　調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

便利でお得なサービスメニューをご用意しています

● オンライン修理受付のご案内

オンライン修理受付では、インターネットを利用して修理のお申し込みや修理の状況をご確認いただけます。また、下記にご案内しておりますピックアップサービス（引取修理）も、オンライン修理受付からお申し込みいただけます。

● ピックアップサービス（引取修理）のご案内

オリンパス指定の運送業者が、梱包資材を持ってお客様ご指定の日時にご自宅へお伺いし、故障した製品をお預かりします。お客様自身での梱包は不要です。その後弊社にて修理完成後、お客様のご自宅へ返送いたします。

電話でのお申し込みの場合：「オリンパス修理ピックアップ窓口」　フリーダイヤル **0120-971995**

営業時間：平日 8:00 ～ 21:00　土・日・祝日 9:00 ～ 17:00（指定休業日を除く）

※記載内容は変更されることがあります。

VR398201